

No. 16

昭和47年3月 初版

昭和50年9月 改訂版

# 各国事情のしおり

—— ペル —— 編 ——

1975・9

国際協力事業団

LIBRARY

国際協力事業団	
受入 月日 '87. 7. 6	709
登録 No. 08755	20
	GA

## は し が き

本小冊子は、技術協力のために海外へ派遣される専門家のオリエンテーション用資料として、ペルー国に派遣されている専門家の調査報告に必要な資料を末尾に添付して作成したものである。

内容は、専門家の日常生活に定着した任国事情、特に衣食住、気候、教育、公共施設、治安及び対日感情等を重点に作成されている。

本手引が同国に赴任される専門家に有効に利用されることを希望いたします。

最後に、御多忙中のところ進んで執筆の労をとられたペルー国派遣水産行政専門家川越敬一氏に深甚の謝意を表します。

昭和50年9月

国際協力事業団

総務部長 松原 進

JICA LIBRARY



1034787103

## 目 次

1 任 国 事 情	
1. ホテル	リマ、地方 ..... 1
2. 住宅	概況、家探し、選択のポイント、賃借契約、家賃の 相場、補足、入居当初費用、契約解除 ..... 2
3. 食料事情	概況、加工品・調味料、飲物・水・酒、たばこ、 食堂・酒場 ..... 6
4. 衣料事情	概況、品質、気候との関係、オーダーメイド、 既製服、携行衣料、ペルー製で十分なもの ..... 8
5. 家具・什器・電力	概況、電力事情、携行品 ..... 10
6. 携行家財のまとめ	..... 12
7. 家事使用人	概況、給料、労働条件、必要な使用人、注意 事項 ..... 14
8. 保健・衛生・医療	概況、医師と日本語、出産、薬局、歯 科、保健上の注意、有害昆虫その他、理髪と美容、クリーニ ング、家の掃除、浴室、便所 ..... 16
9. 子女の教育	教育制度、専門家の子女の通学、リマ以外の勤 務地、リマ日本人学校 ..... 19
10. 娯楽とスポーツ	概況、ゴルフ、室内遊戯、保養地、茶道・ 華道、音楽・舞踊、柔道、競馬、宝くじ、登山、映画 ..... 22
11. 日系市民、在留邦人	中日会、県人会、三水会、火曜会、 在リマ専門家連絡会議 ..... 26
12. 交通	長距離交通、リマの市内交通、道路事情、旅行計画 ..... 27
13. 自家用車	概況、運転免許、輸入特権、国産車の購入、資 金、中古車、ガソリン代、自動車保険、相談 ..... 38

14. 為替・外貨事情	概況、為替相場、送金受領、日本への送金、通貨、小切手、旅行者の場合	41
15. 出入国管理・税関	税関、持込禁止品、持出禁止品、外国人登録	44
16. 便宜供与	種類、公用車、事務所、労務の提供、電話、出張、資料と情報、住宅、免税	46
17. 通信・運輸	郵便、電話、テレックス、運送	49
18. 言語	公用語、現地語事前学習、語学学習施設	51
19. 気候	概況、リマ、多様性、気候の変化	52
20. 治安	概況、夜間外出禁止、鍵、緊急時の連絡法	57
21. 出版物・新聞・雑誌	国内、外国、日本、専門図書	58
22. 国民性・風俗習慣	階層社会、上流、第2階級、第3階級、労働大衆、契約の重視、弁護士の役割、アスタ・マニャーナ、チップ、愛情の表現	59
23. アンデス高原のワンカイヨ市	アンデスを越えて、交通、観光、日曜市の賑い、住民、日系人	62
24. 総括	暮しやすい国、日本語の通用、生活テンポ、後援システム、雑務処理、参考図書	63
II	同国に対するわが国の技術協力実績	67
III	大使館等連絡先	75



## I 任国事情

### 1. ホテル

#### (1) リマ

長期派遣にせよ、短期派遣にせよ、又勤務地の如何を問わず、当初数日間はリマのホテルに宿泊することになる。リマは人口3百万の大都市であるから、ホテルの数も次山あるが、そのうち日本人旅行者がよく利用するものを次に掲げる。(複はダブル、単はシングル税込料金、単位ソール。サービス料・食費は別。75年8月調査。)

グランド・オテル・ポリバル、 複1,890、単1,519

オテル・クリヨン、 複1,731~1,888、単1,126~1,416

リマ・シェラトン・ホテル、 複1,853~2,033、単1,392~1,525

オテル・リビエラ、 複1,286、単970

オテル・コロンプス、 複983、単621

オテル・ウイルソン、 複451~523、単281~351

オスタル・デル・ソル、 複475、単275

いずれも、リマの都心、又はその近くにある。はじめの3者がA級、リビエラが準A級、あとの3者がB級である。ポリバルは格式が高く、都心にあつて、買物や航空会社が近いが駐車場の難がある。クリヨンは、室数が多く、駐車点でややよい。シェラトンは最も新しく、駐車その他車の便はもっともよい。

リビエラは、日本人旅客が多いホテルである。片言の日本語も通ずる。

コロンプスは、都心を少しはなれているが、却つてそのために都心以外への交通の便がよい。(在リマの日本企業は、近ごろ都心ばなれの傾向があり、コロンプスに日本人客が増えたようだ。)

ウイルソンは、日系人の経営で日本語が通ずる。次のオスタル・デル・

ソルとともに長期滞在にも適する。

長期滞在といっても、教人の調査団が数週間、宿泊する場合と、単身赴任の専門家が数カ月乃至数年滞在する場合でおのずから異なるであろう。前者の場合は、上記のホテルのリビエラ以下のホテルが適当であろうし、後者のためには、家庭的な雰囲気のあるペンション（下宿屋）がむいているのではないだろうか。日本語が通用するペンションとしては、和歌山県入山本氏経営のペンション・ヤマモトがある。朝夕食つき月額1万ソールである。他にも相場はまずこんなところで、英語が通ずるペンションもある。

この他、日秘文化会館の宿泊部がある。1泊200～220ソールで安い。朝食の便がないことが欠点であるが、大使館が近く、歩いてゆける。

#### (イ) 地方のホテル

主な都市には国営ホテル（オテル・ツーリスタ）がある。料金は大体前記のコロンブス級、高くともリビエラ級である。リマの近くの保養地には、リゾートホテルもあり、料金は大体リビエラ級である。調査期間中1～2泊をことうりリゾートホテルで過ごすのもペルーを別の角度から見る意義があろう。

ホテルの食費は、当然ホテルの格式に比例する。A級で朝食80～100、昼夕食120～200、B級で朝食50～80、昼夕食100～150（ソール）くらいである。地方都市のホテルは、リマのB級なみである。

## 2. 住宅

### (イ) 概況

ペルーも世界一般の風潮のとおり、人口の都市集中が激しい。人口の増加率は年3.1%で、50万前後の増加人口が毎年都市人口に追加され、さ



らにその過半がリマ・カヤオの首都圏に集中する。首都圏の人口は毎年25～30万増加する。1973年にその人口は350万といわれたから、80年までに500万人をこえるであろう。

当然、都市の住宅事情は相当にぎびしい。外国人に適した住宅は、需要が供給を上まわっているので、値上りがはげしい。

地方都市の場合は、事情は必ずしも同じでないが、開発計画を抱えているところではやはり住宅事情が緊迫しており、南部の中心都市のアレキパでは、リマよりも相場が高い。

以下にのべるのは、主としてリマの場合であるが、契約上の習慣などは、地方もこれに準ずる。

#### (4) 家探し

住宅は、大別すると、独立家屋とアパートになる。アパートといっても、日本の都営あるいは公団住宅よりもずっと床面積が広く、日本の概念でいえば、マンションに当るかもしれぬ。

借家には、家具なしと家具付とある。2～3年程度の滞在では、家具付を選ぶべきであろう。家具付といっても千差万別で、なかには高級な食器までついているケースもあるが、食器は借りない方がよい。皿1枚割ってもセット全部の補償を要求されるようである。

家探しには、代理店を通ずる方法と新聞広告などによって自分の足で探す方法とがある。代理店といっても、日本の同業者ほどビジネスライクでないし、英語の通ずる業者は2、3であり、自家用車をもつ者も少ないから、結局、スペイン語のわかる友人の車にのせて貰って、代理店や広告を頼りに家を探すことになる。この家探しが、赴任者のペルーの現実と直面する最初の場である。日本の感覚でみると呆れたり腹がたつことも多いであろう。

(c) 選択のポイント

- a. 設備、電話、駐車場があるか。燃料は電気か、プロパンガスか。家具（とくに寝台と浴室）はどうか。寝室数。
- b. 環境、勤務先との交通。子女があるときは学校との交通。騒音の程度。
- c. 治安状況

高級住宅区域は警官数も多く治安がよい。ダウンタウンは区財政力が低く、警官が少く、それだけ治安がわるい。

電話は、リマでは必要条件である。日本とちがって、何かあっても近所隣と相談というわけにいかず（スペイン語に熟達しているなら別）電話で知人に相談するはかないからである。後述するように、車も必須であるから、完備した駐車場（ガレージ）が必要条件である。駐車場が不備であると、タイヤを盗まれる。ときには車が消えてしまう。

(d) 賃借契約

契約期間は、通常1年単位だが、交渉により、数ヶ月とすることも可能。必ず、公正証書による物々しい契約書と備品書を交換する。これらの書類は、スペイン語のわかる人に見てもらって内容をよく理解しておかなければならない。

家賃は月払で、月のはじめに支払う。敷金は、通常1ヶ月分で、これは、予告すれば最終月の家賃に充当される。

近ごろは、契約更新時の値上げ率を規定することが多く、通常年10%である。

(e) 家賃の相場

専門家が居住する住宅の平均的な家賃の相場は、75年上半期の新規契約でおおむね次の程度である。

アパート（寝室3、家具付、電話、駐車場あり、環境良好）月額16,000～18,000ソール。

独立家屋（同上、庭あり）月額20,000～25,000ソールズ。

家具なしの場合は、上記の $\frac{2}{3}$ くらいであるが、電話がないことが多く、あまりすすめられない。

(c) 住宅に関する補足

家主は個人の場合、住宅会社の場合、個人であるが職業的な代理店が委託管理している場合がある。

良心的な個人の場合が一番良いが、それは、暁天の星のようなものでそれに当るのは幸運というべきであろう。住宅会社あるいは職業的代理店は、事務的な交渉ができるので、当初はの方が好都合である。

独立家屋の場合、盗難防止のため、番犬を飼う人が多い。番犬の入手は、犬猫屋もあり、知人から譲渡を受けたり、庭師にたのんだりする。

(d) 入居当初の費用

家賃及び敷金の他、家具付の家の場合、寝具類及び掃除道具、台所用品などに1万ソールズくらいを要する（保健衛生参照）。家具なしの家であれば、寝台・食卓・椅子類はいうまでもなく、照明・カーテン・電気・水道工事の一切を含めて、少くとも5万ソールズは必要であろう。もっとも、出国時にその約半分は回収不能であろうから、長い目でみれば経済的である。

(e) 契約解除・移転

帰国、あるいは他によい家を見つけ移転するときは、契約解除は30日以前に家主に通告するが、このときは文書をもってするか、弁護士を介しなければならぬ。そうしなかったため、敷金を最終家賃に充当できなかった人もある。

家具付の住宅を借りているときの移転は簡単である。筆者が家具付の家をすすめる理由のひとつはこれである。盗難の多いペルーでは引越のとき日本風に裸積みで家財を輸送したら、どれくらい消失するものか、一寸見

当が見つからない。

赴任当初からベストの条件の住宅に当ることは、まず稀で、大ていの日本人は最初の契約更改時に移転する。住宅情報は、三水会・火曜会などの在留邦人団体における交際によって入る。これらの団体の効用のひとつである。

家主側としては、日本人と契約した経験をもてば日本人を歓迎するそうだ。家賃の支払いはキチンとしているし、家や家具を大事に使うからである。日本の婦人は帰宅すれば、室内履にはきかえるが、一般ペルー婦人は室内でもハイヒールなので、床材が、細いヒールのため傷だらけになる、というようなことはその一例である。

### 3. 食料事情

#### (1) 概況

南米は、じゃがいも、さつまいも、トマト、とうがらし、各種のささげ類(豆)などの原産地である。したがって品種も多く、用途による分化も著しい。

ペルーが国産だけでは不足している食料は、牛肉と小麦である。牛肉については、海岸地方では、月の前半は販売禁止である。小麦は精白度を下げている。ペルーには、真白なパンや麺類がない。

野菜及び果実は概して豊富である。柿、栗、梅は稀であり、りんごと桃と梨は、日本の方がよい。豊富な果実は、西瓜、メロン、いちご、ぶどう、みかん、オレンジ、グレープフルーツ、きんかん、パイナップル、パイヤ、マンゴー、その他熱帯性・亜熱帯性の各種の果実がある。

野菜類では、ないものはわさびとみつぼぐらい。地方によってはごぼうがない。海藻は、ペルー独自の種類(日本のむかでのりあるいはおごのりに似る。)が食用にされるが、日本人好みの、あさくさのり、あおのり、

わかめ、こんぶ、ひじきのようなものはない。

きのこ類はマッシュルームだけ。たけのこは稀に日本食品店に出る。

米は、上・下の2級に分れる。概して上級米が日本人向きだが、必ずしもそうとは限らないので、主婦が苦勞する。

(四) 加工品・調味料

欧米風の加工品・調味料は大いにある。日本的なものでは、みそ・醤油・とうふ・かまぼこはリマなら入手できる。梅干・しいたけ・かつお節は市販されない。味の素は国産化されている。

(五) 飲物・水・酒

水質は一般に硬度が高い。衛生上の配慮もあり、必ず一度煮沸してから飲む。緑茶はないが、紅茶は国産がある。コーヒーは豊富、輸出国である。コーラ類は各種ある。酒は、国産のワイン及びその蒸留酒のビスコ及びビールは安くかつ豊富である。とうもろこしから醸造したチーチャホーラも安い。しかし、輸入酒は非常に高価である。すなわち、スコッチウイスキー、バーボン、ブランデー、日本酒等。

(六) たばこ

たばこは輸入品は市販されず、すべて国産品である。上級（ルビオという）は高く、下級（ネグロという）は安い。これは税率が違うからである。米国のノウハウによるWINSON、KENTなどの銘柄は、20本入り30ソーレス。

(七) 食堂・酒場

食堂にピンからキリまでであることは、どこの国でも同じだが、それを表わす公的な表示はない。概していえば、テーブル掛があつて、給仕の服装がよいのは、高級店である。

日本式の喫茶店に当るものは、サロンデテエまたはカフェテリアといわれるが、数は少ない。イタリア風のスパゲティあるいはピザを看板にする

店もあり、スイス風、ドイツ風、フランス風、北欧風を看板にする店もある。英国風とロシア風を称する店は、まだ見ていない。

日本食堂は、リマに6店(うち寿司屋1店)タララに1店ある。

中華料理店(チーフ)は、至るところにあり、リマのルンフン(熊鷹酒家)は南米最大を誇称するが、事実かどうか。平屋建てなので、敷地面積でいえば、日本のどの中華料理店よりも大きいだろう。

酒場は、夜8時又は9時ごろ開店し、午前3時まで開いている。日本風のホステスが接待するところは稀である。リマにはただ1軒、日本人経営のクラブ・トミー(旧姓マチュピチュ)があるだけである。

#### 4. 衣料事情

##### (1) 概況

ペルーは、綿花の輸出国である。羊毛も品質はとにかく、自給できる。特産の動物繊維にはアルパカがある。更に高級なのはビクニヤである。アルパカもビクニヤも、ともにらくだ科の哺乳類であるが、前者は家畜、後者は野生又は半野生である。絹の生産はない。日系人で養蚕を試みた人があったというが、今はない。将来の課題であろう。化学繊維は、ドイツ系バイエル社などが国産化しているが、量・質ともに限られている。アセテート、ナイロンなどがある。日本と違うのは、これら化繊が賞重視されていることである。

##### (2) 品質 縫製・染色

布類は外国品の輸入が許可されるが、糸は国産品だけである。したがって縫製がわるく、ほころびやすく、ボタンがとれやすいのがペルーの衣料品の欠点である。

##### (3) 気候との関係

気候の項でのべるように、ペルーの気候は地方による変化が非常に大き

い。氷河から砂漠・熱帯降雨林まである国である。

首都リマについてのべれば、日本の真夏と真冬を除いた気候であるから、そのつもりで衣料の用意をすとよい。降雨はないから、リマでは雨具はいらぬが、地方へ旅行することもあるし、リマでは市販していないので、レインコートの1着はもってきた方がよい。

(三) オーダーメイド、既製服

紳士服・婦人服ともにオーダーメイドできるが、縫製がよくないと、仕立上りの期日が *hasta mañana* なのが欠点（国民性の項参照）。既製服もかなり豊富だが、日本人の体型にフィットしないのが欠点。

(四) 携行衣料

日本的な衣料は当然ながら、市販されない。婦人の場合、夏・春・冬の和服（訪問着）及びその付属品（帯、たび、草履）はパーティへの出席のため必需品である。（これは欧米一般と同じ）。男物の場合は、それほど必要性はないが、自宅でくつろぐための、浴衣、あわせの長衣はあったほうがいいだろう。

洋服類

男物、背広 赴任地の気候を考慮して4、5着。Yシャツ 縫製がわるいのでなるべく多く。肌着も同じ。ネクタイ デザインは日本製がはるかに上、ことに絹製はない。装身具 ベルー特有のインカ風デザインもそれなりの面白さはあるが、機能的には日本製がまさる。真珠・さんご・べっこうなどはない（この点、婦人ものも同じ）

女物 婦人服地は無地ものはまああだが、プリント物・レースなどは日本製が格段によい。高級品は日本品、ふだん着はベルー品というのが一般的な態度である既述のとおり絹ものはない。

子供・乳幼児 成長のことを考えると、将来はベルー製にたよるとして、

当座の分しかもってこられないだろう。乳幼児の場合、おむつとおむつカバーは携行した方がよい。

(6) ベルー製で十分なもの

毛布(日本製はベッドサイズでないので使いにくい)、シーツ、枕カバー。セーターその他の編もの類、ことにアルパカやビクニヤを材料としたものは、日本では高価かつ入手難である。ただしアンゴラはない。

敷物 ジゅうたんは羊毛製又は化繊製である。必ずしも安いとはいえないが、かさばる品であるから携行の要はない。ござなどのい草製品はないが、これはむしろ趣味の問題に属しよう。

履物 靴をオーダーする習慣は一般的ではないが、既製品で十分間に合う。品質・価格ともにはまず日本並である。当然ながら高級な和装履物はない。面白いことに日本風のビニール草履が国産化されていて、ベルー人も愛用している。

帽子 リマでは男性が帽子をかぶる姿はほとんどみかけない。防曇用には、パナマ草を編んだ帽子、防寒用には、アルパカの毛皮帽がある。婦人の帽子は、服飾の1種なのでこゝではふれない。

5. 家具、什器、電力

(1) 概況

ヨーロッパ的な家具・什器は、ほとんど国産化されており、ただ品質上の問題があるだけである。金具に欠陥があるものが多いが、我慢できないほどではない。

電気器具は、オランダ系のフィリップス、日本のナショナルが企業進出している。ラジオ・テレビ・ステレオ・電球などは、国産である。

時計・カメラ・ライターは全部輸入である。セイコーはスイス時計なみの評価である。



電子計算器は、国産がなく、日本製の小型電卓は大変貴重視される。  
窯業品すなわちガラス・陶磁器類は、あることはあるが、技術水準が少  
い。現在では国産保護のため、高率関税が課せられており、外国製品は非  
常に高価である。

台所用品は、大抵のものは国産があるが、刃物は品質がわるい。

#### (c) 電力事情

家庭用電力は、全国的には220V、60C、北部海岸のタララのみ、  
110V（サイクル不明）

リマ市の場合、電力はまず不足はないようだ。日本のように台風や雷雨  
があるわけでないので、停電もあまりない。

日本製電気器具（国内用）を携行するときは、トランスフォーマ（変圧  
機）が必要。これは国産もある。

#### (c) 携行品

電気器は、非常に高価である。というより日本が世界的に非常に安い  
だ、というべきかもしれない。

テレビはモノクロームだけである。米国式のチャンネルのものでないと  
いけない。米国向の輸出規格品を携行するとよい。ナショナル製品ならア  
フターケアもきく。

ラジオ・ステレオ・掃除器・トースター・アイロン・電熱コンロ・ミキ  
サー・洗濯機・電動又は人力(?)ミシン・電気かみそり（充電式がよい）。  
電気ストーブ（リマの場合なら0.5～1KW）などの電気製品。

陶磁器、5客用のセット式洋陶セットをもってくる人が多い。これなら  
うまく包装されていて手間がはぶける。非常に高価なものは、輸送中の破  
損や、使用人の取扱いミスのことを思うと避けた方が賢明というもの。

日本をしのぶ（ノスタルジア抑え）の室内装飾品としては、人形、舞扇、  
漆器などをもってくる人が多い。

冷蔵庫は、当地では必需品であるが、家具付貸家（アパートも同じ）なら大ていはいっている。扇風機やクーラーはリマなら不要である。（真夏でもうちわか扇子で十分）

小ものでは、箸・割箸・菜箸・ゆのみ・茶托など。

#### 6. 携行家財のまとめ

外国で生活することになったとき、まず頭をなやますのは、何をもってゆくか、ということであろう。赴任先へもって行っても役に立たぬもの、不要なもの、あるいは向うの方が安いものを高い運賃をかけてもってゆくのは馬鹿らしいと考えるのは当然である。しかしまた向うへついでから、あれをもってくればよかったといっても、それを再発送するためには旅券その他の手続きが必要なため、それがむづかしい。1回の輸送で必要にして十分な家財を送るとするのは、いづくしてむづかしいことである。

この場合、ひとつの基準がある。その品物が日本の輸出品かどうかである。それが日本の輸出品であるならば、現地で同種品の生産があるかも知れないがもって行った方がよい。たとえば魔法瓶である。ペルーにも、国産の魔法瓶も、英国製もある。しかし国産は断熱性が悪いし、英国製は高い。同じ理由で陶磁器類ももってゆく類に入るであろう。

次に日本でなければつくられない品物がある。図書がそうである。辞書・辞典・便覧・子女の教科書・参考書の類である。

家具類は概して携行の要がない。それはかさばるだけでない。外国の住宅には日本式の家具はびったりしないのである。それに日本は家具の輸出国でない。しかし近ごろのスチール製家具には折たたみ・分解のできるものがあり、こういうものは便利であろう。

電気製品は、大てい輸出品である。しかしTVのように規格がちがうものもあるから注意しなければならない（別項参照）。日本製電気製品は海外で

好評だから、仮に洗濯機が家具付貸家で重複すれば、売却してもよいわけだ。  
輸送費が損になることはまずない。

荷造りの詰物に、新聞・木毛・プラスチックの詰物をつかうのは馬鹿げている。使い古しのタオル、日本手拭・トイレトペーパーなどを緩衝材に利用しよう。

項目ごとにペルーの事情を述べたから、それぞれの必要性に応じて携行すべきものを選んでもらいたい。重複をいとわず最低携行品目を列挙すれば、次のとおりである。

(イ) 食 品

乾燥しいたげ、乾のり、緑茶(煎茶・番茶)、七味唐辛子、かつお節又はだしの素、梅干、高級醤油(缶詰)、みつばの種子。

(ロ) 衣 料

肌着、婦人和服、男子背広、半礼装、ネクタイ、靴下、箱製品、装身具、婦人草履。

(ハ) 家 具

家庭用電気製品、陶磁器、箸、漆器、刃物。

(ニ) 娯楽・スポーツ関係

ゴルフ、麻雀、碁、将棋、その他のスポーツ用品。

(ホ) 印刷物、事務用品、その他

カメラ、眼鏡、小型電卓、ホチキス、辞書、その他の図書類、置時計、腕時計。

(ヘ) 保健衛生

日常備薬

これらの詳細は、それぞれの項を参照していただくこととするが、カメラと眼鏡については、特記しておきたい。

カメラは完全自動式のもの、水銀電池の消耗が強く、その補充がきれる

と、物の役に立たないから、却って半自動の方が、現実的であろう。充電式又は電池式の小型ストロボもあった方が便利である。普通サイズとハーフサイズ(小型カメラ)の両方あった方がいい。

眼鏡は、あなたの眼にぴったりレンズがあるかどうかわからない。ことに乱視のレンズはそうである。ペルーの眼鏡枠は、日本人の顔にぴったり来ない。予備の眼鏡がほしい。日光の強い土地だから、度付きサングラスがあると便利である。サングラスは大変高価だから、濃淡2種はもってきた方がいい。

写真のフィルムについて一言、白黒フィルムは、日本のフジ・サクラも現像可能だが、カラーの場合、日本製品の現像をするのはごく一部の店だけである。コダックが一般的でその他アグファも入っている。どちらにせよカラーフィルムも、白黒フィルムも日本の方がはるかに安いし、現像技術もよい。短期の調査団なら、必要なフィルムは全部日本からもってきて、日本へ帰って現像・焼付けするのがよい。

## 7. 家事使用人

### (イ) 概況

職業紹介所はあるが、家事使用人を雇うときは、個人的なツテに頼ることが多い。ことに日本人は風俗習慣がちがうので、いくらかでも日本人家庭で働いた経験をもった女中の方が、少くとも到着早々は何かと好都合であろう。日本語は話せなくても、ミソシル、ゴハンぐらいはわかるし、その料理法も知っているような女中が便利だから。火匠会・P S R Kなどの会合がツテを求める上で役に立つであろう。

### (ロ) 給料・労働条件

住込みと通勤とで違う。住込みは、素人くさい若い女が多いし、通勤は、家政婦的で professional である。

住み込み女中も、通学するか、しないかで異なる。義務教育(小学校)へ通学しようという女中の意思を雇主が阻むことは法的に許されていない。雇うか雇わないかだけである。(小学校へ女中が通うという点、おさない少女を雇うのかと思うむきもあるかも知れないが、夜間小学校は1日2時間ほどしか授業をしないので、フルに通学しても10年ぐらいかかるのである。最近ではインフレの進行もあって女中の給料も著しく高くなった。

住込女中(通学) 月1,500~2,000ソールズ

# (通学なし) 月1,700~2,300ソールズ

通勤女中 1日につき 180~200ソールズ

住込女中には、食事、寝具、仕事着を現物支給しなければならない。これを金額に見積れば少くとも月2,000ソールズにはなるであろう。

日曜及び祭日は有給休暇である。この他年に30日間(連続)の有給休暇を与えるか又はこれを買上げてやる。さらに7月(独立祭)と12月(クリスマス)には若干の賞与を与える。

(4) どういう使用人が必要か

乳幼児がいる家庭では、住込みの女中がなるべく望まれる。

夫婦だけの家庭、あるいは、12才以上の子女のいる家庭では通勤女中の方が好都合の場合もある。週2日とか、3日とか雇う場合が多い。

来客のある日だけ料理人を雇うこともできる。日系二世の婦人でこれを職業にしている人もある。女中よりはずっと有能なことは当然である。

庭のある家に住めば、庭師を雇う必要がある。芝刈りと植木の手入れをする。庭の大小によって異なるが、月最低300ソールズくらい。

(5) 注意事項

盗みに対する道德観念、器物の損傷に関する責任観が低い。女中を雇ったときは、大事な物を取扱わせてはならないし、それらの格納場所にはいつも鍵をかけておくことが、雇主の義務である。鍵をかけないことが女中

の人格に対する信頼の表現だというのは、日本人だけの独りよがりすぎない。(これは事務所でも同じだ。)

解雇に当っては、雇人側に重大な過失又は犯行がない限り、1ヶ月前の予告を必要とする。一方的に解雇したいときは、弁護士に相談するのがよい。労働権の侵害だと、政府に訴えられると面倒である。帰国のための解雇は、1ヶ月分の手当を支給すればよい。

## 8. 保健・衛生・医療

### (a) 概況

軍人及び政府職員などの医療施設は、ほぼ完備しているといえる。筆者が勤務する漁業省にも医務室があり簡単な診察や処方箋はやってくれる。

医療は一般的には、米国式である。開業医が自分の患者を入院させ、病院側は、ナースサービスをするという方式もかなりある。大衆を対象とする社会保険病院もあるが、これは外国人は利用できない。

リマに関する限り、重篤な風土病は余りないが、特異なものをあげれば、ビールス性肝炎がある。これにかかると少くとも30日は就床を要し、その後も3ヶ月くらいは無理がきかない。経口的に伝染するので、不潔な飲食をしないよう注意しなければならない。

アマゾン森林地方にはマラリアがある。また南米は、梅毒の原産地(というも変な表現だが)なので、その方面は注意しなければならない。この病気は、元来ヤマ(南米特産のらくだ科家畜)の病気だそうで、ヤマから伝染することもあるそうだ。ヤマは害敵に唾液をふきつける護身術(?)をもっているが、この唾液に梅毒菌がいるという。

レブラ患者はほとんどみない。

### (b) 医師と日本語

日系二世の医師がかなり開業している。余り心配はいらない。また米国

で修業した医師が多いのでかなりの医師は英語ができる。

(c) 出 産

まず心配はない。

(d) 薬 局

薬局の数は多く、大ていの医薬品はそろっている。持薬のたぐいは、滞在予定期間分くらいもってきた方がよい。休日も当番 (turno) の薬局は開いている。turno は新聞に公告されている。ペルーは完全な医薬分業で、医者処方箋にもとずいて、薬局で薬を買う。もっとも処方箋がなくとも薬を買うことは可能である。

(e) 歯 科

ピンからギリまであるのが、歯科で、日本製の高級歯科機械をそなえた最高級の歯科医は、歯1本の治療費が500ソールもするが、なかなか上手である。ペルーの歯科医の特色は、1回の治療に30分でも1時間でもかけることで、その代り3~4回も通えば完了する。金冠の技工もなかなか上手なように思う。

(f) 保健上の注意

リマは冬季は日光不服になるので、休日には、郊外 (山手へ20Kmもゆくと日照地帯になる) へ出かけて日光にあたること。日光不服になると風邪をひきやすく、風邪は万病のもとである。

外出から帰ったら、手を洗い、うがいをすること。生もの、生水に注意 (ビールス性肝炎)。

(g) はえ、蚊、有害昆虫、毒蛇、猛獣

リマの高級住宅地なら、はえも蚊も少ない。噴霧式殺虫剤で十分防除できる。ゴキブリは甚だ多い。これには手をやいている。

日本にはいない虫に、さそりと砂のみがいる。さそりは、最大3cmくらいなので、致命的ではないが、大きな蜂に刺されたほどには痛むであろう。

ときどき室内に侵入してくることがある。砂のみは川原の砂地にいる虫で、皮膚の中にくいこむダニ様の虫である。やられたら外科的にほじくり出すはかない。

この他、森林地方には毒ぐもがいるという。小型の日立たぬくもだが、やられると高熱を発するという。

毒蛇は、リマ付近にはいない。

猛獣としては、森林地方には、ピウマ、ジャガーが分布するが、現在では個体数は激減している。アマゾン川にはワケと猛魚ピラニアがいるから、泳いではいけぬ。あの黄色に濁った水では泳ぐ気も起らないだろう。

#### (7) 理髪と美容

理髪は、欧米なみの分離料金制である。A級ホテルには大ていA級の理髪店が入っている。A級店なら衛生的にもすぐれている。料金はA級が1単位について77ソーレスだから、散髪、顔そり、洗髪・調髪の4単位で308ソーレスになる。中級店では、日系人の経営する店がかなりあって、そういう店では、日本語で世間話をたのしむこともできる。料金は単位50ソーレス位。安いところは単位20ソーレス位だが、衛生上あまりすすめられない。

美容店は、セット50ソーレス、パーマが200ソーレス位が中級の値段のようである。日系の店もある。

マニキュア、握手があいさつの国では、婦人は勿論、男もマニキュアをする人が多い。マニキュアを爪磨きとするのは誤訳というべきで、手指の手入れというべきであろう。男性は爪に色を塗らない。

#### (8) クリーニング、家の掃除

御用聞き配達式の洗濯屋も、洗濯物を持参して頼む式もある。米国に多いという自動販売式の洗濯機は、まだ見聞していない。料金はワイシャツ15ソーレス、背広上下ドライクリーニングが150ソーレス位。



家の掃除業者もある。入居前に、つまり家財を入れる前に家主を通じて、掃除業者を入れるとよい。料金は、床の削直しが平米当り10ソーレスくらい。前住者が傷だらけにした床も一新してしまう。窓ガラスの掃除まで含めた掃除料は未詳であるが、普通の住宅で2,000ソーレス前後であろう。

(5) 浴室・便所

浴室に洗面、浴槽、便器、ヒデがあるのが普通で、浴槽がない場合を男という。便所は、リマでも地方でも完全水洗である。

9. 子女の教育

(1) 教育制度

幼稚園（私立のみ）	2年
小学校（公立・私立）	5年
中学校（公立・私立）	5年
職業学校（公立・私立）	小学校卒を対象とするものが多く、いろいろである。
大学（公立・私立）	5年

ペルーの公立大学の最高学府は、学史440年（南米最古）のリマのサンマルコス大学である。公立大学は、授業料無料、兵役免除（延期でない）であるから、当然入学希望者が殺到する。サンマルコスの入試倍率は、学部にもよるが、100倍をこえる。

上流社会の子女は、私立大学（アメリカ系・ドイツ系・フランス系）に入学するものが多い。コラゾンデヘスス大学は、東京の聖心女子大の姉妹校で、もちろん女子学生だけである。

(2) 専門家の子女が通学する学校等（リマの場合）

幼稚園は、ハルディン・サニシドロが、地理的位置から日本人園児がい

ちばん多く行く。言葉はスペイン語だが、幼児は言葉が早い。日本の子供が多いせいもあって、とくに内向的な性格でない限り、半月もすれば、なじんでしまう。家族のなかで一番早くスペイン語を覚えるのは、幼稚園児だという。通園バスが運行している。

小・中学校については、別項、リマ日本人学校を参照されたい。

高校・大学級は、残念ながら、日系の学校はない。6万人も日系市民が住むこの国に対して、日本政府も日本の教育界も無関心と思われることに対しては、いささか義憤を感じる。ヨーロッパ諸国や米国と日本とが違うのはこの点であろう。やむを得ず在留邦人は、次のようにしている。

女子の場合、日本へ残してくる人と同伴してくる人とがある。JICAでは、同伴すれば、子女教育手当が給付される。高校以上の娘さんは、米国系のルーズベルトスクールへ入学するケースが多い。言葉は英語である。授業料はかなり高い。(入学金2万5千ソール、PTA会費年1万2千ソール(家族当)、寄付金2万ソール(年・学生当)、授業料月1,825ソール、バス代月650ソール、教科書年1,500ソール、保険年175ソール)

男子の場合は、外国ことペルーの大学では、学歴社会日本では不利を免れないので、ペルーの大学へ入ることはまずなく、多くは日本に残してくる。商社員の場合は、米国の大学へ入学させている人もあるが、専門家の場合は、経済的に不可能だろう。

(c) リマ以外に専門家が勤務する場合

専門家の事例は、そう多くないが(進出企業とくに鉱山関係に多い)、次のいずれかによる。

- a. 本人だけの単身赴任(妻子とも日本在住)
- b. 家族はリマに居住させ、本人だけ勤務地に住み、月数回リマに帰る。  
(リマから半日行程、400km以内なら可能)

c. 本人も家族も勤務地に住む。子女の教育は、日本からの通信教育により、親が教科指導をする。もしくは完全にペルーの学校へ入れ、日本語その他日本人としての教育を親がする。(通信教育の制度については文部省に問合されたい。)

(三) リマ日本人学校

現地名称 Asociacion Academia de Cultura Japonesa

所在地 Gregorio Escobedo 803. Jesus Maria, Lima,

(日秘文化会館内) TEL 61-1685

入学金1人につき1,500ソール、毎月の経費は児童1人につき授業料1,200ソール、スクールバス代400ソール(乗らない人は不要) P T A会費50ソール、記念品代15ソール。なお、Asociacionの会員の在ペ企業負担金がこの他に年額約1.6万ソールある。

生徒数は出入りが多いが、70~90人程、教師は、日本からの派遣教員9人、現地採用2人、他にスペイン語1人の計12人で日本式の教育をしている。従ってペルーの学校として認められず、日本語講習会がペルーでの正式名になっている。学力に関しては、理科、社会など、教材の不足や社会環境季節等の相違の為、問題もあるが、1組多くて十数人、しかも、算数・理科・社会・図工等夫々専攻の先生が授業を受持つ為利点もある。昭和50年から4年生以上週2回、野球・バレー・卓球のクラブ活動が始まったので、帰宅後友達が少いという問題も、大分改善されると思われる。経費は授業料、スクールバス、P T A会費合せて1,700ソール程で子女教育手当と大体とんとんである。さて子供の為持参すべき物は、何しろ後からの取り寄せは大変困難である故、文房具・本・玩具・衣類等、引越荷物に入れるだけ入れた方がよい。つまり持参して損な物はない。但し引取には、荷物到着後さらに1ヶ月以上掛る故、当座必要な物は手荷物で持込む必要がある。必須な物は、学年により異なるが、例えば、木琴等楽器

類、習字道具、絵具セット、裁縫セット、算盤等、時期により次学年の事も考えた方がよい。なお筆入・下敷等も当地で入手できない。給食はない故、弁当箱・水筒(一時魔法瓶が流行したが、すぐ壊してしまう様だ)も要る。蛇足だが、弁当用にノリを沢山準備した方がよい。さもないとノリ巻でなくノリ乗せだ等子供にいわれる様になる。通学の服装は自由だが、靴・体操服は必要で、特に女子は黒(又は紺)のブルマーが注文はできるが時間が掛るので必須であろう。教科書は供与されるが、不足の事もあるし、又その教科書に合ったドリル等買える便もある故、海外子女教育振興財団に行き、取揃えて来た方がよいであろう。

スペイン語は週2時間あるが、話す機会が少い為余り効果は無い様である。

## 10. 娯楽とスポーツ

### (4) 概況

ペルーの国民的スポーツはサッカーである(フットボール fútbol という。)すべての都市、町、村に競技場(campo de fútbol)があり、さらに街角で少年たちが、1人がゴールキーパー役、数人がシューター役をして興じている様をみる。わが国でキャッチボールの遊びをみるようだ。(今は交通事情で激減した。「路で遊ぶのはやめましょう」)

上流階級(国民性の項参照)は、クラブ(club)の会員になっていて、休暇や休日をクラブで過ごすことが多い。最高級のクラブには、日本人を入れてくれないが、2流クラブのメンバーシップなら、買うことができる。紹介があれば、ピッチャーとしての利用もできる。

クラブには、ゴルフ、プール、テニス、カードルーム、食堂、宿泊所などが備っている。劇場があるクラブもある。

リマには、日系市民で組織されたラ・ユニオン運動場がある。日本人な

ら別に紹介がなくても入場できる。野球場、サッカー場、バレーボールコート、プールなどがある。ゴルフ場はない。

(4) ゴルフ

保健と娯楽をかねてゴルフをする人が多い。メンバーシップは、日本に比べれば非常に安くて、5,000～10,000ソールズくらいである。リマ周辺に6ヶ所ほどあるが、日本人の加入を許すのは、3ヶ所ほどである。会員の場合、1回の競技料は、1人200～300ソールズくらい。

ゴルフ用品は、すべて輸入品なので高価である。競技料が安くても、中流以下のペルー人にゴルフが普及しないのはこのためかもしれない。ペルーへ来たからゴルフをはじめたという人もかなり多い。ゴルフ道具はもってきた方がよい。

(5) 室内遊戯

ボーリングはペルーでは余り行われない。人口350万のリマに1ヶ所あるだけで、地方都市にはない。

在留日本人の間では、麻雀が広く行われている。男子成人の殆ど、婦人の殆どは麻雀をたのしんでいる。その趣味のある方は、牌とゴムマットをもってくる。卓は既製品(カードテーブル)で間に合せたり、特注して作らせたりする。

碁・将棋は麻雀ほど同好者は多くないが、大してかさばらないから、趣味の人はもってくるにこしたことはない。日本とちがって、休日をTVの前でゴロ寝でたのしむというわけにいかず、退屈の余り、「死にそう」と悲鳴をあげる人もあるから。

チェス・トランプ(ポーカー・ブリッジ)はペルー人の間でもかなり行われているようである。

(6) 保養地

リマの周辺には保養地がいくつかある。有名なのは、北へ40kmほどは

なれたアンコンAncónである。ペルー人はリマのヨバカクーバ(リオデジャネイロの保養地)だと自讃するが、本物には遠く及ばないながら夏には入出が多い。日本の湘南海岸のようにいもの子を洗うほどには至らない。手近なところでは、カヤオヤリマの海岸も海水浴場になっている。ただし、ペルーの海は水温が低いので水泳には適さない。むしろサーフィンに興ずる方が一般的である。うねりが強いからである。

ペルーは火山国なので、温泉が多い。全国に100ヶ所ばかりある。アレキバ市郊外のユーラはラジウム泉である。著名なものをいくつかあげると、カハマルカ市郊外のパーニヨデルインカ(硫酸泉62°、74℃)、アンカッシュ県のモンテレイ(炭酸硫酸泉48℃)、リマ県のチュリン(炭酸硫酸泉34℃)、同サリーナスデワチョ(強食塩泉・常温)、タクナ市郊外のカリエンテ(硫酸・硫酸泉98℃)。しかし日本の温泉地のように娯楽性はなく、純粋な保養地である。

魚釣: 海岸地方では磯釣、舟釣、高原地方では、ます釣ができる。あゆがないから川釣りの面白さはたのしめない。

ヨットとモーターボート、海のクラブに加入すれば楽しめるが、日本人で加入している人が余りないので、調査できない。

#### (d) 茶道・華道

日秘修好百年記念事業として、日系人、在留商社の醸出でリマ市へ寄贈された日本庭園のなかで、これも裏千家から寄贈された立派な茶室がある。日秘文化会館の中にも小さい茶室がある。茶道はいまリマで急速に普及しつつある。

華道は、小原流の支部があり、日本人の特殊な芸術としてペルー人にも認識されているようである。

#### (e) 音楽・舞踊

貸ピアノの制度がある。月500ソールである。レコードやテーブ

も市販されているが、日本の歌謡曲は市販がないから、若干はもってきた方がよいだろう。

日系人のピアノ・バレエなどの教室があり、子女を通わせている在留邦人もかなりあるようである。

(h) 柔道など

バレーボール、柔道、空手などのクラブがあり、日本から指導者が招へいされている。夜8時ごろから成人の練習がはじまる。

(i) 競馬・宝くじ

リマには立派な競馬場がある。場外馬券も売られているようである。宝くじも各種あるようで、盛場ではその立売人がうるさいほどである。ただし筆者にはその趣味がないので買ったことはない。

(j) 登山

ペルーの最高峰Huascarán 6,768 m、第2峰Yerupajá 6,634 mなどは、世界の登山家の目標のひとつである。これだけの高峰になると、日本アルプスへ登るようなわけにはいかないことは勿論で、ベースキャンプを組んで登らなければならないので、素人には不可能であろう。

これらの高峰はもちろん雪線以上にあり、氷河さえ小規模ながら存在するが、スキーはたのしめない。雪量が少いことがひとつ、雪線が高いので(5,000 m以上)酸素不足のためスキーのようなはげしい運動ができないのである。南米では、チリーでないとスキーはできない。

しかし登らず、スキーはせずとも、これらの高峰は、そのボリューム十分で、その圧倒するような偉容を見にゆくのは日本では味えない爽快さがある。

(k) 映画

白黒テレビしかないペルーでは、映画はなお大衆娯楽の王座にある。映画館の数も多いし、設備もかなりよい。日本とちがうのは映画街というも

のがないことで、館が市内に分散していること、映画1本毎に入場させることである。リマの場合、1日3回上映(午後4時、7時、10時)、1人20ソレス前後の料金である。新聞広告でみたい映画を決めてみにゆく。指定席・予約制の高級館もある。不便なのは、日本のようなプレイガイドがないことで館まで切符を買いにいかなければならない。

#### 11. 日系市民・在留邦人

ペルーには、日系人が6~7万人いる。うち一世は、1万人弱、他は2、3世である。人数があいまいなのは、調査の精度もあるが、混血者をどう数えるかによる。

外交官、政府派遣職員、商社駐在員、その家族等、いわゆる短期在留者は、時期により増減があるが、長期的にみれば漸増しており、昭和50年はじめで、7000人余である。その大部分はリマ市に居住する。

ペルーは、日系市民数では、ブラジル・米国につぎ第3位の外国である。人口に対する比率では、ブラジルに次ぎ第2位、移民の歴史の古さでは米国に次ぐ。

日系人団体の全体を総括するのは、中央日本人会、略して中日会である。リマ市にある日秘文化会館に事務所をおく。この会館には、中日会のほか、日本婦人会、日秘商工会議所、リマ日本入学校などが入っている。日系市民の約60%は、沖縄県関係である。沖縄会館は立派な建物である。沖縄関係は、村人会まである。県人会(必ずしも県人会という名をつけているとは限らないが)が組織されているのは、熊本・福岡・福島・山形・広島・静岡・山口・鹿児島・山梨・宮城・愛媛・岡山・富山などである。(人数は大体この順である。)

これら出身地別のグループの他に、職業別・居住地別の団体もある。たとえば、日本人パン商業組合、日本人養鶏組合、カヤオ・ワンカヨ・トルヒー



ヨなどの日本人会。あるいはプレーニヤ二世協会、二世大学生協会などという若い入を中心とするグループもある。

短期在留者のグループは、次の二つである。

三水会、会社単位で組織し、親睦と情報交換を目的とする。役員は1年毎に交替する。大使館その他の公務員は準会員扱いである。月1回、原則として第3水曜日の夜に集会をし、夕食会をかねて、情報交換、新米者、帰国者の紹介がある。大使館、領事館の連絡事項もこの席でなされることが多い。その他、各種のリクリエーション行事をする。準会員は、参加の都度、その実費を支払うことで許されている。つまり維持費を負担していない。

火旺会は、夫人で構成する。個人加入なので、公務員も民間人も全く平等の扱いである。年4回会合する。火旺会の特色は、部（同好会）の活動で、ゴルフ・麻雀・料理・市内見学などのグループ別に日常活動をしている。

在リマ専門家連絡会議、略称をPSRKという。昭和47年ごろから定期的に活動するようになった。昭和49年4月から50年3月までの間に、例会7回、家族会2回、小委員会数回、リクリエーション3回を実施した。会費は特に定めず、その都度主義である。ゆきあたりぼったりのようであるが、会員構成の出入りが激しいので、会の固有財産があると却ってわずらわしいのである。

専門家及び家族の情報交換と親睦が目的である。

## 12. 交通

### (4) 交通事情

#### (1) 長距離交通

国内の長距離交通は、航空機、長距離バス、長距離COLECTIVO（後述）鉄道による。ナチカカ湖とアマゾン地方では水路も利用される。航空機、国内航空会社には、政府系のAEROPERUと民間系のFAU

CETT の2社があるが、幹線ラインには両社が就航している。幹線ラインとは、次のようなラインで、通常1日1往復又はそれ以上である。リマ〜ピウラ、リマ〜イキトス、リマ〜アレキバ、リマ〜クスコ。

その他の都市とリマの間には毎週2便又は3便の場合が多い。ペルーの航空路は、リマを中心に放射状のネットが張られていて、地方都市間を結ぶものはきわめて少ない。また飛行機の発着時間がルーズなので、時刻表をみて乗継ぎを計画しても予定どおり飛ばないことがあるから、たとえば、帰国直前にクスコ観光を計画しても、必ず出発前々日にはリマへ帰着するようにしておかなければ、安全とはいえない。

国際空路は、リマを中心に、米州各地、欧州各地及び東京行がある。例外は、イキトスからブラジルのベレン行が1週1便ある。

国際空路及び幹線を飛ぶのは大型JETであるが、ローカル線は、小型JET、ターボJET及びピロペラ機である。

注意事項は、予約のconfirm及びreconfirmを確実にすることで、切符にOKとかいてあるからといって、これを怠ると乗れなくなる。電話では駄目な場合が多く、少くとも代理者が切符と身分証明書(旅券)をもって代理店へ出頭して手続きをしなければならないので、わずらわしくもあるし、日本的なトンボ返り旅行が不可能である。

また、ペルー特有の問題として高地順応の配慮がある。海拔3千メートルを越えるクスコやプーノへの旅行は、少くとも到着当日は、活発な活動は、生理的に不可能と考えておくがよい。高地順応力は、個人差が大きく、年齢や性別には余り関係がない。ある婦人は、せっかくクスコ観光には行ったものの、3日間とも頭痛、不眠、嘔吐に悩まされたとい、ある男性の年配者(元海軍航空士官)は、クスコへ着いた日からビールを飲んで元気であった。しかし一般的には、高地へ着いた日は、酒類、炭酸飲料の摂取及び過食はさけた方が安全である。機内放送は大て

いスペイン語であるが、掲示類には、まゝ、英語を併用する場合がある。

長距離バス、ペルーの海岸地方を縦走する汎米道路（後記）には、長距離バス国際線が走っている。その他にも、ワンカヨ、セロデバスコ、ワラスなどの主要都市へ行く路線がある。大型車の場合はトイレ付で、料金は次のCOLECTIVOにくらべてかなり安く、40～50%くらいである。切符を買うには、身分証明書（旅券）が必要である。

長距離COLECTIVO、大型乗用車による乗合タクシーで、運転手が路線毎に組合（COMITE）を作って運行している。バスより便利な点は、自宅まで迎えにきてくれること、行先の門前まで届けてくれること、定員（5人）分の料金を払えば貸切り（EXPRESO）となること、乗降者が少ないのでそれだけ速いこと、時間が割合自由になることなどである。

鉄道、当国の鉄道は、大部分が高原地方の物産（主として鉄石）を海岸の港まで搬出するためのもので、そのかなりの路線がトラックとの競争に敗れて廃止の方向にある。1975年現在、旅客運送をしている主な線は、

リマ～ワンカヨ（1日1便）

クスコ～マチュピチュ（1日1往復）これはペルーでは珍しい観光鉄道で、日本製のディーゼル列車が走っている。

クスコ～プーノ（1日1便）

アレキパ～プーノ（1日1便）

鉄道の料金は、ほぼ長距離バス並み、又はそれ以下である。クスコ～マチュピチュ線を除き、車体はかなりガタがきている。通勤輸送には鉄道は全く貢献していない。これはペルー人の性格論になるが、鉄道輸送には高度のシステム運行が必要なのであるが、これが彼等に最も不得手なのである。列車の発着時間は、かなりいい加減である。

## (2) リマの市内交通

リマの市内交通は、市営バス、民営バス(MICROBUS)、契約通勤(学)バス、タクシー及び自家用車である。最近、モーターバイクがかなり増えたが、まだ日本ほどではない。

市営バス、俗にBUSINGと呼ばれ、80人乗りの大型車を使っている。その他150人乗の超大型連結バスが市内高速道(後記)のバス専用レーンを走っている。料金は1人S.3.5(1975)。路線は番号で表示しているので、馴れないと利用しにくい。定められた停留所でのみ停まる。料金は乗るときに払う。切符をくれる。ワンマンカーである。降りる前に紐をひいてベルを鳴らして運転手に知らせる。停留所名の通知は全くない。

民営バス(MICROBUS)、路線毎に運転手がCOMITEをつくって運行している。通過する主要地点をバスの横腹に表示している。また車体の塗色で大体の路線が識別できるから、馴ればこの方が利用しやすい。停留所が決まっておらず、乗客が手をあげれば、とまり、また降りたいところを(どことこの街角 esquina)と告げれば止まってくれる。車体の整備度はいろいろだが、総じて市営バスよりはかなり落ちる。料金S.2.5。朝夕の通勤時間は、超満員で、外国人の利用はまず無理であろう。料金は降りるときに払う。切符は発行しない。大てい助手(車掌)が同乗しており、降りたいところを告げておけば事前に知らせてくれる便がある。

契約通勤(学)バス、大きな会社(工場)、官庁、私立学校は、バス会社と契約もしくは自前のバスを持っていて、職員又は生徒の送迎をしている。たとえば漁業省は5台の通勤バスを契約しており、日本人学校は3台のバスを所有している。これらのバスは勿論、定時登退庁(校)のために運行されているので、それ以外の時間は他の乗物に依らなければ

ばならない。たとえば専門家の補助職員（秘書、便丁）を時間外勤務させたときは、帰宅の乗物の配慮（自分の車又は専用車で送ってやるとか、乗物代を与える）しなければならない。子女の時間外の登退校は、バス・タクシーも利用できないではないが、自家用車で送迎するのが無難である。日本人学校のバスは、各家庭の門前に止まる。幼稚園の場合も、バスまたは乗用車による送迎サービスがある。（教育の項参照）

タクシー、タクシーには公認タクシーとアルバイトタクシー（やみタクという程、違法性はないようで、警察が非公認タクシーを取締ったりしないようである。）がある。公認タクシーは、屋根にTAXI という表示をつけており、横腹に黒と黄の市松文様があり、大ていはいはこわれて作動しないが、メーターを持っている。公認とアルバイトで料金の差はほとんどなくて、車体の大小、新旧、良非そして距離と時間帯で料金がきまるようである。しいていえば公認タクシーの方が地理をよく知っているといえようか。公認タクシーは流しほかに電話付専用駐車場をもって家庭から電話で呼ぶことができる。日本のような無線タクシーはまだない。料金はトヨタ（Corona 以下同じ）級で基本S $\text{L}$ 20。1 Km当りS $\text{L}$ 10 前後（基本料金を含む）。但しこれは昼間リマ市内の場合で、深夜の場合や高級ホテル前にいる高級車タクシーはこの5割増見当。総じてスペイン語が下手なお客には高くふっかけがちである。乗る前に行先を告げて値段を交渉するのが普通である。運転手の態度は、概して人なつこく、少くとも東京のタクシーよりは、感じがよい。しかし車体はその反対に時速50 Km以上出すと分解しそうなオンボロ車も沢山ある。

タクシーは時間働いすることもできる。その場合の料金は、リマ市内、昼間で、1時間S $\text{L}$ 150~200である。日本語のできるタクシーもあるが、海運関係をおとくいにしている、カヤオ港に日本商船が入港して

いるときは、契約済みのことが多い。

レンタカー、リマ市内に5社ほどのレンタカーの会社がある。そのうちの3社についての調査を次に記す。(1975年5月)

会社名(電話)	車種・基本料金	走行料金
El Dorado Rent a Car (22-4760)	V・W S\$ 400 (保込)	S\$ 4
Graf Automoviles 31-1990 32-3023 32-9050	T S\$ 650 (保100)	S\$ 5
Hertz Alquiler de Autos (28-8477)	T S\$ 650 (保100) V・W S\$ 500 (保100)	S\$ 6

(註) Tはトヨタ、V・W はフォルクスワーゲン、基本料金は1日当、保込は保険料込み、保は保険料金加算額、走行料金はKm当。

代表的なGA社のトヨタを借りて300Km走れば、 $650 + 100 + 5 \times 300 = 2,250$ になる。これをタクシー10時間備えば、S\$ 2,500前後になるので、地理や交通事情に通じているタクシーの方が便利である。

駐車料金、市内とくにリマの旧市内には、駐車禁止区間が非常に多いので、駐車場を利用せざるを得ない。民営の場合は、1時間S\$ 10又は30分S\$ 5が相場で、まれに1時間S\$ 8というものもある。特殊な例として映画館のそばの駐車場が映画1本分S\$ 15である。その他に月ぎめ料金(全日夜、全日、全夜の別あり)もある。また繁華街には、公定駐車域があつて1時間S\$ 8である。教会や商店街付属の無料駐車域にはしばしば少年がいてS\$ 1~2で張番(cuidado)をする。車を掃除(雑巾で

拭う)させるとS/L 5くらい。

(c) 地方都市の市内交通

アレキープ、ワンカヨ、ピスラ、トルヒーヨ、イキトスなどの主要な都市の市内交通は、リマと大差がないが、市営バスがあるところはないようである。アレキープは旧市内の道幅がリマの旧市内より一層狭くて、大抵の道が一方交通になっている。イキトスはガソリン代が高く、また車価も高いので、タクシー代が高い。ワラスのような山間の小都市ではタクシーが非常に少なく、COLECTIVO がバスに頼るほかないので、自家用車をもってゆかないと不便である。ほかにも小都市の場合、このような例は少くないであろう。

(d) 道路事情

(1) 汎米道路 Panamerican Highway :

Carretera Panamericana

北はアラスカから南はチリー及びアルゼンチンまで、南北両米州を横走する大幹線道路がある。ペルー国内では、北はエクアドル国境のツンベスから、リマを通って南はチリ国境のタクナまで、完全舗装で、少くとも片側1車線、都市近郊ではしばしば2車線又は3車線が確保されている。とくにリマ市の南北では北へ7.5Km、南へ6.2Kmは有料道路区間で、片側3車線の堂々たるハイウェイである。通行料はリマから北、あるいは南へそれぞれS/L 10、リマを迂回する環状部がS/L 5である。面白いのはこの有料道に併行して無料の道(余り良質ではないがとにかく舗装されている)があることで、トラックやオンボロ車やmicrobus (前出)はこの方を走っている。有料道の速度制限は100Kmなのだが、この速度以下で走っている車は少いようである。

なお、この道路は、アレキープ市で東方へ分岐し、アンデス山脈の4,600m余りの峠をこえ、プーノ市に至り、チチカカ湖南岸を迂回し

てボリビアに入る。ボリビアを貫通してアルゼンチンまで延びている。またボリビアからブラジルへ至る道も開けていると聞く。アレキパ市及びプーノ市の付近を除いては未舗装ではあるが、ペルー富士といわれる Misti (5,860 m) をはじめとする火山や塩湖、荒涼たる高山性砂漠、多数の氷跡湖を縫って走り、雄大な景観に恵まれている。

汎米道路は、砂漠と OASIS (河川ぞいの耕地を交互に横断する。大体、砂漠80%、OASIS 20%である。砂漠の景観は概して単調であるのでとかく厭気を催しやすい。厭気を催さなくても、運転を誤って路肩を外れて砂につっこむと動きがとれなくなる。こうしたトラブルに備えて長距離の自動車旅行では、2台が伴走し、かつ、牽引用のロープ、砂地から車を引出すための2枚の板、スコップが必携である。

また風の強い地方では、しばしば流砂が道路を被うことがあり、これにつっこむと動きがとれなくなる。夜間の砂漠地方の旅行は格別の慎重運転が必要である。

## (2) 中央道路 Central Highway, Carretera Central

リマ市から東方へアンデス山脈の山ひだをわけ入り、Tieltio峠 (4,843 m) をこえて、ラオロヤ市で北へ、セロデバスコ、ワヌコ、を経て、アマゾン中流のプカルバ市に至り、南は、ワンカヨ、アヤクチヨ、アバンカイ、クスコなど高原地方の諸都市を縫って、プーノ市付近で Panamericana に合する。

リマから約50Kmは、中央分離帯付、片側2~3車線、そこからラオロヤを経てワンカヨまでは完全舗装である。舗装区間は年々少しずつ延びている。また、ラオロヤ付近からタルマを経て、アマゾン中流のオクサバンバに至る分枝もある。リマ~ラオロヤ~ワンカヨ間は、少くともわが国の2級国道なみの道路構造で、ワンカヨ天文台勤務の石塚、野村両専門家は、この区間311Kmを5時間で走破するというのが、高地順



危を必要とする一般の入は、途中の休憩を含めて、7時間をみておかなければならない。

### (3) その他の地方道

この他、パカスマヨからアンデス高原のカハマルカ市へ至る道、カスマから同じくウラス市に至る道を経験しているが、いずれも舗装は部分的であり、ことにアンデスを横断する山岳部は未舗装であるだけでなく、しばしば拡幅工事のため、時間帯によっては、道路閉鎖になることがあり、事前の調査が必要である。

また高原地方は、雨期(12月～3月)には降雨による崖くずれが起るので、雨期の旅行は差控える方がよい。

### (4) リマ・カオヤ地区の都市道路

リマには、市内高速道が1本ある。これは旧市内のリマ・シェラトン・ホテル付近からサニンドロ区、ミラフローレス区を貫通してバランコ区の海岸へ出て、 Choloyos 海岸に至る道路で、市内を走る部分は、掘割の中を走り、完全舗装、立体交差、ノンストップで、片側3車線、他に中央にバス専用レーンを備えている。走行無料である。この他、市内の幹線道は、分離帯つきの完全舗装である。準幹線道は、3～4車線の幅広い道でも、一方通行の場合が多い。なかには分離帯のない対面交通の道もあるが、そのような道は運転にとても注意が必要である。

交通信号は、概して完備しているが、その設置場所が必ずしも一定しておらず、極端にいえば、辻ごとに違う場合もあり、交通整理の警官のボックスも右にあつたり左にあつたり、辻の中央にあつたり、区々なので、これは覚えるよりほかない。

ペルーでは、黄信号では、つつ走る車が多いので、黄信号で急停車すると後続車に追突される危険がある。またブレーキライトや方向指示灯が故障している車も多いので、ボロ車のうしろは走らない方がよい。

「前車のわだちを見よ」ではなく、「前車をえらぶ」のがベルギーでの運転の要諦といえよう。

女性の運転する車がこわいことは、洋の東西を問わぬが、ことにベルギーでは金髪の女が運転する高級車、ことに外交官プレートの車がこわい。おしゃべり、わき見運転が多いし、信号無視、ブレーキが間延びするなど、彼女らの車は敬して遠ざかるに如かずである。

(4) 旅行計画

航空機や鉄道の発着時間が、時刻表どおりでないこと、高原地方への旅行には高地順応の配慮が必要なことはすでに述べたが、その他、旅行計画をたてるうえで必要な注意事項を述べておく。

(1) 旅行エージェント

リマには、多くの旅行エージェントがあるが、日系の次の2社が、日本語で相談できるので便利であろう。

a. KINJYO Travel Service (金城旅行社)

Av. Avancay 346, 電 27-2270, 27-3379

支店 Nicolas de Piérola 971, 電 27-6167,

28-3486

b. INOUE Travel Service (井上旅行社)

Nicolas de Piérola (ビルの4階と7階)

電 28-6706

両社ともに東京支店がある。

a. 渋谷区代官山町16-2 電 463-6311 ~ 15

Telox J28248

b. 台東区蔵前4丁目14-11 鈴木ビル

電 851-1493, 866-1406

## (2) 平均走行速度

専門家の旅行は、空路のほかは、乗用車を使うのが普通の旅行であるが、その平均速度は、リマ近郊60Km前後の特に道路事情の良好な部分では80~100Km時を見込みうるが、その他の舗装区間では50~60Km、山岳部及び未舗装区間では、40Km前後とみるべきであろう。ペルー人と共に旅行する場合は、彼らののんびりした生活態度から食事又は休憩の時間をたっぷり見込んでおかなければならない。そそくさと昼飯をかきこんでまた車にとびのるという日本的せつかはここでは通用しない。また、食堂のサービスも日本のように手早くない。

## (3) 道路地図

ペルー自動車旅行協会(Touring y Automovil Club del Perú; Av. César Vallejo 699, Lince, 電 40-3270)が発行している簡単な道路マップ(Hojas de Ruta)がある。全国が11区ほどの分冊になっていて、地誌、里程、高度、主要都市の通過法、ガソリンスタンド、修理工場、食堂、ホテル、病院などの記載があり、旅行必携品のひとつである。1部S/L 10~15。

## (4) 宿泊

旅行先のホテルの予約は、日本のように簡便ではない。これはひとつは国内の市外回線の不備によるもので、わが国の電気通信部門に対する技術協力によって徐々に改善されているが、他はみずしらずの客に対するホテル側の不信の念によるものである。だから旅行先の出先機関などを通じてホテルの予約をとるのが確実である。(その他、ホテルの項を参照)

## (5) 国内旅行の携行品

地方では、リマよりもさらに商品の流通がよくないので、次のような品物は、忘れないように携行すること。

洗面具、写真のフィルム、好みの煙草、マッチ（ライターにはガスを充填しておく。高原地方ではガスライターは点火しない）。蚊やり、道路地図（前出）、旅行案内書（リマの書店には主要観光地図、及び全国一冊のものがある。後者には英語版あり）、ねまき、スリッパ。

### 13. 自家用車

#### (a) 概況

ほとんどあらゆる国のあらゆる車種が走っている。

「古い車が走っているなア。」

というのが、日本からの旅行者の嘆声である。実際、30年代のバックワードが現役で働いている。古い車は米国車が多いが、現在、国内生産が認められているのは、フォルクスワーゲン、トヨタ、日産、ダッジ（アメリカンモーターズ）、ボルボ（スウェーデン）の5社だけである。これらも現在では、部品の一部国産のはかば、組立が主であるが、政府の方針としては、アンデス共同市場内での国際分業を指向しており、将来は、ペルーは中型乗用車のエンジンを含む完全国産を計画している。この計画に対する応札は、トヨタが成約しているので、計画どおりに進めば、トヨタ（コロナ級）がペルーの自家用車の過半を占めるようになるだろう。

#### (b) 運転免許

公私を問わず、自家用車の必要性が高い。理想的には、夫婦の双方が運転免許をもっている方がよい。国際免許は、1年間有効であるが、専門家（家族）の場合、なるべく早く国内免許をとる方がよい。手続きは簡単である。専門家（家族）には外交官と同じ免許が与えられる。（外交官並は免許だけで、車のプレートはそうでない。）

#### (c) 輸入特権

専門家は、自家用車の輸入（持込み）が認められる。車種の選定は、ペ

ループでのアフターケアを考慮すれば、トヨタのコロナか、日産のバイオレットが有利である。日本での購入方法（輸出車は、物品税などが免除されるので、輸出車を購入する方が割安）は、両社で相違するので、国内で開合わせたい。昭和49年の時点では、トヨタは、円払でよく、日産はドル払を要求した。（日産がなぜドルを要求するのかベルギーではわからない）

免税輸入車は、4年間譲渡不可能である。但しこの方は、後任の専門家に使用承認（事実上の譲渡）をする方法があるので、余り気にすることは無い。

輸入承認書は、大使館を通じて入手し、これを日本へ送付して、輸出許可、購入手続、船積（輸出通関）をする。輸送が40～50日、陸揚後の通関がまず30日であるが、問題は、ベルギー国内における車検と使用許可すなわち具体的には、その車を走らせるまでに要する手続きにどれくらいの日数がかかるものか、見当がつかない。もっとも早い例が約1ヶ月、おそい方は6ヶ月もかかっている。

1974年9月、乗用車の輸入特権に関する新しい法令が公布され、一段とその制限が厳しくなった。その関係部分を抄訳する。

○法律第20、724号、1974-9-10

第1条 外交使節団及び外国人専門家機関ならびにそのメンバー（注、以下「外交官等」という。）は、ベルギー国内において生産されている車両を、無税で購入した場合には、購入のときから、2年間使用したときのみ、譲渡することができる。

第2条 外交官等は、ベルギー国内で生産されているのと同種同型の車両を無税で輸入した場合には、その入国後、4年間の使用の後のみ、譲渡することができる。

第3条 外交官等が、転勤及び離職のため、上記期間を全うせずに譲渡する場合には、残期間に見合った税金を国へ納めなければならない。

第4条 外交官等が、ペルー国内において生産されているのと、同種同型以外の車両を輸入した場合には、譲渡のためには、入国後4年間の使用の後に国に税金を納めなければならない。上記期間を全うせず転勤、離職する場合には、その車両を国外へ持出すか、無償で国に寄付するかである。

第6条 この輸入特典は、1人1台に限る。

現在わかっている範囲で若干のコメントを付記すると、第1条の国産者の無税購入は、公布後1年近く経ても、その細則ができていないので、適用例がないといわれる。

第2条にいうペルー国産車と同種同型の車両については、日本車を例にとってみると、日本におけるモデルチェンジとペルーにおけるそれと時期がかなりずれることに注意を要する。Datsun Violet の場合、ペルー国産の datsun と同種同型、すなわち、1500cc の violet は、1975年8月時点では日本で生産されていない。

第3条の残期間に見合った税金とは、月数に単純に比例するのではないようで、例が少ないが、ある例では、残期間1.5月で約6万ソール（約40万円）と査定されている。1974年に、Toyota corona 1800 ハード・トップを輸入した場合に算定された税額（免税手続上の算定）は29万ソール（約200万円）であった。

#### (二) 国産車の購入

国産5車種のうち、家庭用に適するのは、フォルクスワーゲン、トヨタ、日産の3車種であろう。いずれも申込んでから入手まで相当日数を要する。標準価格は下記のとおりである。 1975年8月、税込現金払)

VW (定員4人)	172,279 ソール
トヨタ (5人)	229,000 ソール

DATSUN (定員4人) 210,260 ソーレス

(d) 資金

2年以上在勤期間の専門家には、JICAの保証による東京銀行信託会社  
ニューヨークの融資がえられる。

(e) 中古車

中古車の販売店も多く、家庭用には上記3車種のほか、FIAT、オー  
スチン、ダイハツなどが向いている。中古車の価格は、日本より減価率が  
少なく、1年乗っても、新車の70%くらいである。毎年の値上りが大きい  
ので、名目的には、購入価格と同じくらいで売却できる。

(f) ガソリン代

車は高いが、ガソリン代の安いのが、ペルーの特色である。75年7月  
に大幅値上げの結果は、下記のとおり。

95 オクタン ガロン30 ソーレス

84 オクタン ガロン15 ソーレス

日本のノーマルガソリン(90オクタン)を両者の平均22.5ソーレ  
スとすれば、リットル当邦貨換算約41円である。

(g) 自動車保険

民営保険制度あり。月額千ソーレス程度の保険に加入するのが普通。

(h) 自動車に関する相談

自動車の価格は、毎年かなり大幅に値上りしている。保守その他、法規  
上も日本と相違する点が多いので、日系の販売店で相談すればよい。

14. 為替・外貨事情

(a) 概況

ペルーの為替管理は非常にきびしい。一方日本政府は、昭和48年に自  
由円口座を認めなくなったので、長期滞在専門家にとっては、ペルーは金

の面ではかなりきびしい国である。そのことをまず銘記しておきたい。

(iv) 為替相場

為替相場(公定)は次の複式になっている。(1968年以來不動、

1975年9月27日実施)

貿易レート 45 ソーレス

非貿易レート(旅行者、居留外国人個人用)

1米ドルにつきドルからソーレスへ 4338 ソーレス

ソーレスからドルへ 4350 ソーレス

この他に、両替手数料及び課税がつくので、実勢は次のとおり、

1,000ドルをソーレスに換えると、42,934ソーレスになり、ソーレスをドルに換えるときは約58,000ソーレスで千ドルになる。このときは税金も高いし、日数もかかる。但し短期の旅行者の場合は、両替証明書を呈示すれば、43,955ソーレスで千ドルになる。

実勢、購買力(物価)からいえば1米ドルは65~70ソーレスであろう。しかし外貨管理が非常にきびしいので、国内で自由な両替はありえない。

(v) JICAからの送金受領

東京銀行信託会社ニューヨーク店に口座を開設し、これをJICAに通知して、これにJICAから送金してもらう。一方、上記の銀行から専門家あてに小切手用紙を送付してくるから、これに所要の金額を記入して、東京銀行リマ支店で買取ってもらう。リマ在住の専門家は、この方法でよいが、地方在住者は、さらに面倒で、最寄のペルーの銀行に自分の口座を開設し、東銀信託NY店へ送金依頼状を送付して、最寄銀行の口座へ送金してもらう。時間もかかるし、1,000ドルに付、2.5ドルという手数料も馬鹿にならない。



(三) 日本への送金

何かの必要があって日本へ（あるいは外国でも）送金したいときは、ペルーの口座から送ることは事実上不可能（絶対不可能ではないが、その手続きが繁雑である。）であるから、(イ)項のリマ以外の居住者の例のように、東銀信託NY店あて、送金依頼状を送付する。口座がなくとも、call and Pay の方法があるので、たとえばチリーへ旅行したいときは、サンチャゴの東銀へ自分名義の送金をしておけば、サンチャゴでドルを受領できる。ただし、ある程度の手持現金がないと入国を許さない国がかなりあるので、100～200ドルぐらいは、ペルーでドルに両替しなければならぬ。ドルへの両替は、国立銀行Banco de La Naciónだけしか扱っておらず、前記のように面倒である。

(四) 通貨

ペルーの通貨は、公式にはSol de Oro、すなわち、黄金の太陽である。Solの複数がSolesである。略号はS/. 又はS/。紙幣は、1000、500、200、100、50、5の6種、大きさが同じであるが、色がちがう。それでもうすぐらいと50と100がまぎれやすい。硬貨は、10、5、1、0.5、0.1の5種。硬貨は、発行年度によって大きさがだんだん小さくなる傾向がある。1975年7月の改鋳によって、さらに一段と小さくなった。

(五) 小切手

ペルーでは大きな金額の支払いに小切手を使用することが多い。しかし店によっては「小切手おことわり」という店もある。家賃・水道・電気・区民税などは小切手で支払う方が釣銭の問題もなく便利である。日本で小切手を使っていない人が多いと思うが、はじめはスペイン語で書くのが七面倒であるが、なれば便利である。小切手用紙が1枚1ソールするので、小額の支払いにまで小切手を使うのは、ばからしい。

(b) 旅行者の場合

旅行者は(あるいは短期派遣の専門家)米ドル現金か、東京銀行又は米国の銀行のトラベラーズチェックを携帯しているのが常である。(トラベラーズチェックは1ヶ所だけサインし、もう1ヶ所は使用の都度サインする。)もし誰も空港へ出迎えに来ないときは(そんなことはまずないが)空港内には24時間開店の国立銀行支店があるので、小額(20ドルくらい)を両替しておく。チップやタクシー代に必要である。

有名ホテルには、大い両替があるのでそこでペルー貨に換えられる。

東京銀行の営業時間は、午前中だけである。(銀行の説明によると、ペルーは法律上の事務が多くてやむをえないのだそうだ)国立銀行(Banco de la Nación)は、午後も開いているが、土、日、祭日は休み。また夏(1,2,3月)は午前中だけの営業となる。うっかりしていると、ドルはあれども無一文同様となって、友人にSOSを発しなければならなくなるので御注意のこと。

15. 出入国管理、税関

(a) 税関

税関は一般旅券の場合はかなりきびしいが、公用・外交旅券なら比較的ゆるやかである。一般に空港の通関は、わりとはやいが、海港の場合は、日数がかかるし、盗難事故も多い。通関には、コネがものをいい、また要領もあるようで、馴れた人とそうでない人では大変ちがう。公用旅券でいえば、携行手荷物(10~15分)、別送手荷物は1日又は2日、空送貨物は1週間、海送貨物は1ヶ月というところだが、海送貨物で4ヶ月(免税手続きを含めて)かかった例もあり、海送された自動車を引取るのには1ヶ月で引取ったが、ナンバープレートの交付すなわち実際に走れるようになるまで6ヶ月かかった例もある。

長期派遣者の場合、最も必要度の高い品物は携行手荷物、これにつく物

を別送手荷物(その季節の衣料品など)、重量のかかるものは海送とするのがよいと思う。

短期派遣の調査団の場合、運賃は割高でも、全部を携行貨物とする方がよい。調査機材というものは、しばしば課税上の議論を呼びやすく、免税手続きに短い調査期間を空費するのはつまらない。(同じ空港でも携行荷物を扱う税関と別送荷物を扱う税関は別であり、手続きも異なる。)

(1) 持込禁止品

武器・火薬・麻薬・劇薬・毒薬等は許可が必要。(これは当然)

(2) 持出禁止品

文化財(考古学的遺物)、未加工の貴金属、宝石は許可を要する。両替証明書の無い外貨は不法所持とみなされる。ペルー通貨の持出は、千ソール以内。

(3) 外国人登録

一般旅券で長期ビザがある場合は、外国人登録が必要である。旅行ビザのときは、3ヶ月が期限で、さらに3ヶ月の延長が認められる。したがって6ヶ月以内にいちど国外へ出て、ビザをとりなおして再入国しなければならない。商社員の夫人がこの方法を取り、結構南米旅行をたのしんでいる人もある。

専門家の場合は、外国人登録に代って、外務省儀典局(protocolo)に、当該所属官庁の届出で公用登録され、身分証明書(tarjeta de identidad)が交付される。t.i.は毎年1回、裏がきされ、4年目に更新される。公用登録は、旅券に記載されるから、一度帰国しても、旧旅券を合冊にしてもらっておく必要がある。t.i.さえもっておけば、旅券を常時携行する必要はない。ペルーでは、身分証明書類を呈示しないとホテルで泊めてくれない。飛行機(国内便)の切符も買えない。t.i.はいろいろな面で便利である。空港入域料が無料になるし、空港構入へも立入れるし、

警察官の誰何も難なく通過できる。

一般旅券の長期ビザは、とるのも面倒だが出国もなかなか大変で、あれこれ証明を必要とするので、手続きに3ヶ月かかることもあるという。公用登録しておればそんなことはない。

## 16. 便宜供与

### (イ) 便宜供与の種類

便宜供与には大別して業務上と生活上がある。

業務上とは、公用車、事務所及び家具、こまごまとした事務用品、電話などの物品・器具の提供、カウンターパート及び補助職員の配置、資料・情報などの供与、公務出張の旅費の支給など。

生活上とは、関税の免除、所得税の免除、住宅の提供又は住宅費の一部補助、輸入禁止品目の輸入許可など。

しかし、これらのすべてがすべての専門家に平等に供与されているわけではない。A1フォームの差もあろうし、所属官公庁の実力(?)の差もあろう。所属先によって微妙な差があるのが実情である。

### (ロ) 公用車

運転手つき公用車の提供を受けているのは漁業省だけである。ガソリンの割当額、使用時間に若干の制限がある。運輸通信省の場合は、出張旅行の場合だけ、公用車の提供がある。

### (ハ) 事務所

完全に独立した事務所を提供しているのは漁業省で *misión japonesa* として独立しており、専用電話がある。デスク、椅子、書類棚などはいずれも提供されているが、運輸通信省は事務室の一隅を閉っているだけである。こまごまとした事務用品に至っては、甚だしい差がある。ペルー製の事務用品は、たとえ提供されても、品質に問題がある。漁業省の場合、複写機、電

卓は、JICAの贈送機材であり、その消耗品も贈送を受けている。

#### (二) 労務の提供

カウンターパートが専任のケースはすくなく、大てい何らかの本務をもち、片手間に日本人専門家の世話係をしている形である。カウンターパート本来の語義は、相俦、一對の他方という意味であり、マンツーマンで技術の吸収をする同役と思うが、スペイン語のコントラパルテは多少ニュアンスが違うかもしれないと思う。カウンターパートとは事務所が離れていて、彼の本務が多忙なときはなかなかつかまらないのが、漁業省の実情である。

補助職員では、漁業省の場合が一番充実していて、専門家2人に対し、秘書(女性=英語ができる)通訳(はじめ二世の男性、今は二世の女性、日本語ができる。)使丁。それと公用車の運転手がいる。ペルーは階層社会なので、秘書=通訳級と運転手=使丁級には画然たる差がある。鉛筆をけずる、手紙を出す、書類を運ぶ、コーヒーを出す、などは使丁の仕事である。運輸通信省では秘書も通訳も使丁も配置されていない。外部から電話をかけても専門家が不在であれば通じない。急用があるときは、仕方なく、自宅へ電話して家族に伝えることになるが、単身赴任者の場合はそれもできない。

#### (三) 電 話

事務所に専用電話があるのも漁業省だけで、運輸通信省では内線がある。自宅に公用電話を引いてくれているところはどこにもない。ペルーでは電話の普及度は低いし、性能もよくない。だから日本がその改善に技術協力をしているのであるが、電話の応待がひと仕事である。その応待のためにも秘書が必要である。間違い電話やお話し中の電話とつきあっている仕事にならないからである。

#### (c) 出張

出張旅費は、ペルー側が支給するのが原則であるが、それがなかなか原則どおりに運ばない。要するに予算の枠があるからだ。支給方法には2型があって、漁業省型はカウンターパートが公金を握っていて、それですべてを支払う。専門家は、ホテルの枕もとへおくチップとか、ごく個人的な支払い（くつ磨きとかみやげ物）だけ。運輸通信省型は、それぞれの割当のなかで、各自のホテル代、食費を支払う。不馴れな間は漁業省型が便利である。旅費の精算という厄介な問題にタッチしないですむ。

個人の車出張したときはガソリン代が出ないのが普通らしい。請求すれば出るかもしれないが、面倒なのでしない人が多い。

#### (d) 資料・情報

漁業省の場合は、官報と主要朝刊紙2、及び漁業省の省内検閲紙2紙が配布になる。他省（たとえば内閣統計局）の発行する資料は、無償給付を依頼するか（これが大抵梨のツブテになる）又は現地業務費で購入する。Webster's New International Dictionary（英文）1冊、ペルー国内大地図の2冊を鋭意交渉の結果、漁業省日本顧問室へ獲得した。これが大いに役立っている。その他、ペルーの国内事情の資料は、年月をかけてこまめに収集するほかない。日本なら、新聞社などの発行する年鑑数種を備えつけねばすむところである。発展途上国では、この種の一般資料の入手がむつかしいのである。

#### (e) 住宅

住宅の提供があるのは、地球物理研究所である。ワンカヨ市郊外という僻地の天文台であるから当然であろう。但し官舎は有料である。住宅費の一部給付は、今は専門家が派遣がやめになったラモリナ農科大学とアレキパ市のSENATI（職業訓練所）である。月15,000ゾーレスの家賃が給付されることになっているが、近年家賃の値上がりが甚だしくなった。

## (7) 免 税

専門家の携行手荷物、別送手荷物等に対する空港税関の関税は、比較的簡単に無税になる。海送された家財についても、時間はかかっても無税になる。自動車についても同様である。郵便局へ送られてきた小包は、いろいろな場合があつて、無税になることもあり、少額の課税なら手続きが面倒なので支払ってしまうこともある。というのは、ベルギーの国内法では、技術協力協定のもとで外国人専門家には関税が免除になる国内法がある。しかし日本はこの協定を締結していない。したがって日本人専門家に対しては、これが準用されるのであつて、1件毎に免税手続きをしなければならぬのである。免税手続きをしていたら、関税が無料になつても留置料が高くなるし、その手間に堪えられないのである。

所得税(国税)は免税である。区民税は支払っている。これは街灯とごみ集めの費用だといわれるので、公共協力の意味で免税の申請をしていない。(区民税は、所得に関係なく、住宅の賃貸価格に応じて課税される。)

自動車税は、申請によって、約90%の減税になる。

## 17. 通信・運輸

### (1) 郵 便

郵便の配達は、各戸あてである。ほぼ正確であるが、表札を出す習慣がないので、番地をまちがえると配達不能である。

小包は配達されない。外国からの小包は、当然、税関を通るのでその手間がかかる。書籍は、ひとまとめにして小包扱いにすると、日本からの送料は安くなるかもしれないが、こちらで受領に不便である。1冊ごとに開封便で送る方がよい。

公用のものも自宅あてがいちばんはやい。ただし移転をしても回送してくれないから移転の可能性があるときは、大使館又は所属先あてにするは

かない。

#### 郵便の所要日数

航空便	東京 → リマ	4日
	リマ → 東京	5～6日(時差のため)
船便	東京 → リマ	約2ヶ月
	リマ → 東京	最大6ヶ月

(郵便物発送を自国船に限るため)

#### 国内便

リマ市内の郵便でさえ1週間かかる。300Kmほどの距離の「電報」も3日かかる。したがって、急ぐ手紙はメッセンジャー会社に委託する。

#### (四) 電話

近年、わが国の技術協力により電話事情は著しく改善された。国際電話は、日本との間でも申込後1～2時間でかかる。国内主要都市間の電話も、はやくかつ明瞭に聞こえるようになった。

#### (五) テレックス

日本との緊急通信で最も割安なのは、商社などのテレックスにたよることがある。電報は、飛行機の到着時間を知らせるようなごく短いものでも5千円もかかるが、テレックスなら、同じものが千円ほどですむだろう。もっとも信書の秘密性はない。

#### (六) 運送

##### (1) 海運

日本・ペルー間には、日本船・ペルー船・第3国船ともに就航しているが、専門家の家財や協力機材は安全性を考えると、日本郵船、OSK三井船、又は川崎汽船のlinerに積むのが安全である。



## (2) 家財輸送上の注意事項

日本発送は、上記船会社の代理店に依頼して、荷造、通関、船積及び付保の手続きをとる。宛名は、所轄官庁気付け日本専門家何某とし、所轄官庁の責任のもとに免税、通関の手続きをさせる。なお、大使館を経由してペルー外務省の免税証明をとる必要があるので、invoice（送り状）を手元にもっていなければならない。

国内の陸運は、別項（交通）を参照されたい。

## 18. 言語

### (a) 公用語

公用語はスペイン語の他に1975年6月にケチュア語が公用語に指定された。スペイン語の流通は約70%といわれるが、都会ではまず100%である。原住民の日用語（ケチュア語はそのひとつ）は30語余りといわれる。英語の流通度はきわめて低い。リマの一流ホテルでは、ホテルに必要な程度には通用する。日本とちがって、大学教育で外国語が必修科目になっていないので、大学教授でも「ノーアプロ・イングレス」（英語は話しません）といって別にはずかしそうでない。日本語は、日系一世又は中年以上の二世に通用する。近年、日系私立学校で日本語教育がなされるようになったので、いくらか復興の兆がある。

### (b) 現地語事前学習

長期派遣専門家の場合、少くとも3ヶ月くらいは、みっちり語学学習をしておくといよい。方法としては、レコード・テープなどの市販品もあり、スペイン語諸国からの留学生の個人教授もよいだろう。一寸、注意しておきたいのは、世界のスペイン語圏の人口は2億以上もあり、大別してスペイン本国、中米（メキシコ）、南米東部（アルゼンチン）、南米西部（ペルー他）で、発音や慣用語にかなり差があることである。だから会話はな

るべくペルー人から習う方がよい。ペルーでは本国スペイン語は上品、外国スペイン語は下品といわれる。

辞書・会話手引・文法書などはできるだけ各種もってくる方がよい。小さい辞書は、家族成人の数だけほしい。英・仏・独・伊語の辞書もあった方がよい。英西辞書は当地にいろいろなものがある。辞書ではこの他、国語辞典・漢和辞典・中型の百科事典なども必要だ。日本なら度忘れしたことも隣席の友人にきけば思い出すが、外国ではそうはいかない。(実はこの原稿も国語辞典を座右において書いている。)

#### (2) 語学学習の施設など

リマ市その他主要都市には語学塾(instituto)がある。1日2時間、1週5日、10ヶ月で完講するが、5ヶ月くらいでやめる者が多く完講に至らないことが多い。受講料は月S/L 1,200。他にテキスト代。

個人教授は、日系2世のアルバイト、英語ができる若いペルー人などで夜1時間くらいS/L 200が標準という。

## 10. 気 候

### (1) 概 況

ペルーの気候あるいは気象について総論を書くことは非常にむずかしい。なぜなら、エクアドルに近い北部海岸地方やアマゾン盆地のような熱帯性気候から、氷河さえ現存するアンデスの高山まで含まれるからである。ペルーの緯度(赤道から南緯18°まで)だけをみて、単純に「暑い国」と考えては大間違いということとは確かである。そしてまた、距離的にかなり近くても、天気が、したがって年間の気候もずいぶんちがうことが多いので、ますます概説が困難になる。同じリマ市内でも、海岸よりのミラフローレス区は、濃霧の中であり、都心(旧市内)は半晴で、山手よりのラ・モリナ区は青空、というようなことは冬季にはしばしばある。また大陸の一部

なので、気温の日偏差が大きい。ことにアンデス山脈のいくつもの山嶺にはさまれた高原地方ではその傾向がつよい。手もとにある気象年報からその例をさがしてみると、

リスコ(南緯 $9^{\circ}56'$ 、西緯 $76^{\circ}15'$ 、海拔 $1,800m$ )

1965年1月24日の気温 7時15.2、13時20.0、18時20.4、  
平均15.6、最高21.6、最低9.7、(日照0時間、降水量0mm)

しかしその数日後には、

同年1月30日の気温、7時14.6、13時16.4、18時20.0、  
平均20.2、最高26.6、最低13.8、(日照8.8時間、降水量0mm)

これをペルー人の口を借りると「1日のなかに冬と夏がある。」という。

#### (b) リマ

日本人の常識をまどわせるのは、ことに首府リマの気候であって、南緯 $12^{\circ}$ で、海拔 $100\sim 200m$ とさくと、相当暑い土地のように思う人が多いであろうが、そうではなくて、寡雨寡照多湿中気温という日本には全く類のない気候型である。このリマから中央国道を60Kmほど東、すなわちアンデスより進むと、海拔 $800m$ ほどにチョシーカという町があるが、ここでは、寡雨多照中湿中気温という気候型になる。同じ中気温といっても、気温は年平均 $2^{\circ}C$ ほどリマより高いのである。気温は、山をのぼればのぼるほど低くなるというのが、日本の常識であるが、ペルーではそうでない。リマ付近の南緯 $12^{\circ}$ の年間平均気温の分布をみると、海岸低地のリマ・カヤオは、 $17.1\sim 19.0$ 、少し高いチョシーカが $19.1\sim 21.0$ のゾーンに入り、それから高度をますにつれて、気温が低くなって、アンデス西尾根で $7^{\circ}C$ 以下(実は、ほとんど $0^{\circ}C$ 前後であろう。雪線より高くなるから)それからアンデス高原一帯の $11.1\sim 13.0^{\circ}$ のゾーン(ここに、ワンカヨ市、海拔 $3,300m$ がある。)に入り、アンデス東斜面を下るにつれてだんだん暑くなり、マードレ・デ・ディオス県(アマゾ

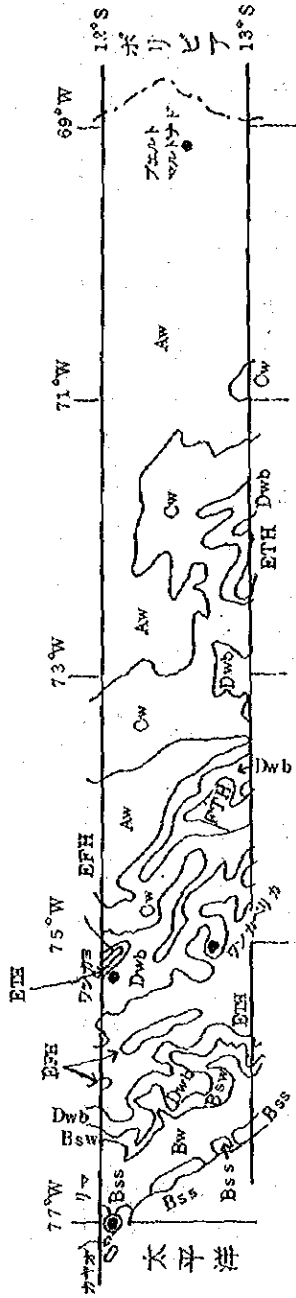
ン中流域)に至って25.1°以上の炎暑ゾーンに入る。図1は作図上の都合で、12°S線に沿ってもほぼ類似の変化がみられる。

気候のデータは別表を参照されたいが、この表について一言しておきたい。資料の都合で累年平均値が得られず、特定年次のデータを示すことになったが、かりに平均値が得られても、その数値を過信、すなわち日本の気象データ並には信用できないことである。その理由は2つある。1は観測技術の信頼度、2は気象の経年偏差がわが国よりはるかに大きいことである。この故に、ペルー（他の南米諸国もそうらしいが）で異なる年次に、在留経験を有する日本人に気候のことを聞いても、人毎に印象が違うのである。ある人は「リマは、夏少し暑いけれど、他は春のようだ。」といい、別の人は「夏はまっまっただけど、その他は湿っぽくて、底冷えがする不健康な土地だ。」という。

図1. ベルーの気候(1965)

測候所 (地区)	標高 m	気 温						降 水		日 照 時 間	
		年 平 均	月 間 平 均 (午後1時)		絶 对 最 高 最 低		年 間 総 計 mm	降 水 が 多 い 月	年 間 総 計 h	多 い 月	少 い 月
			高 温	低 温	最 高	最 低					
リ 中部海岸	137	21.1	3月 25.1	9月 16.3	3月 27.7	9月 13.4	14.9	—	1457	3月	9月
ク ス南部高原	3365	17.2	10月 19.8	7月 15.9	11月 25.5	6月 -20	8177	12-1-23 >100mm	2473	7月	2月
ブ 南部高原	3852	14.4	10月 17.1	6月 12.8	10月 20.0 11月	6.7 -60 9月	590.4	12-1-2 >100mm	.....	.....	.....
アレキサーバ 南部海岸高原	2330	21.5	10月 22.4	1月 20.0	6月 26.1	8月 -3.4	26.3	—	3396	8月	2月
ワ ンカヨ 中部高原	3312	16.6	10月 18.8	2月 14.4	11月 23.7	5月 -3.8	753.8	2-3月 >100mm	2523	6月	2月
トルヒョ 中部海岸	51	26.1	3月 29.6	9月 22.9	12月 31.6	7月 14.0	12.2	—	2292	1月	7月
ビ ラ 北部海岸	147	29.9	2月 32.6	7月 26.7	2月 37.0	12月 13.4	598.7	3-4月 >200mm	.....	.....	.....
イ キトス 東部森林	106	28.6	1月 30.1	8月 27.7	10月 36.6	8月 14.0	3072.9	3-6-11-12 >300mm	.....	.....	.....

図 I



凡例

- AW 草原気候、過期的降雨、冬季乾燥
- Bsw ステップ気候、夏季少雨
- Bss 同 冬季少雨
- Bw 砂漠気候
- Cw 温帯気候、冬季乾燥、雨期の雨量は乾期の10倍以上
- Dwb 寒帯気候、冬季乾燥、平均気温10℃以上4カ月
- ETH 山岳ツンドラ気候、平均気温0℃以上
- EFH 万年雪気候、平均気温0℃以下
- 首都・都市

ペルーの気候の多様性の例

南緯12°~13°東西約850 Km

## 20. 治安

### (イ) 概況

強力犯罪は日本より少ないようである。反政府反体制的な底流はいずこにもあるようだが、表面化しない。それだけに反政府的と誤認されそうな言動は慎まなければならない。すり、ひったくり、こそどろ、空巣、おき引などは非常に多い。落し物・忘れ物はまず出てこない。

### (ロ) 夜間外出禁止

反政府的な事件が勃発すると、政府は地域期間を定めて蓋法の入権保護停止措置をとる。このときしばしば集会許可制・夜間外出許可制(つまり無許可は禁止ということ)となる。1975年2月のリマ騒乱のあとは、5月末まで4月間、夜間外出禁止がリマ地区につづいた。

一般的には、高級住宅街の夜間外出はまず安全であるが、下町(タウン)の夜の通行はさけた方がよい。

### (ハ) 鍵

ホテル・アパート・事務所・住宅を問わず、鍵はこまめに掛けること。ホテルではドアの鍵はもちろん、手荷物の鍵も外出前にかけて出ること。住宅の玄関には、大てい3つくらいの鍵があり、日中はひとつだけ、夜間や旅行のときはすべてをかける。屋内各室の鍵も掛けておくのが原則である。鍵をかけるのがエチケットだと考えるべきなのである。

### (ニ) 緊急時における大使館等連絡法

リマの場合、大使館・JETRO又は三水会(短期在留者友誼団体)の役員会社に連絡する。地方都市ならば日本人会が相談先となる。個人的な緊急事故、たとえば事故による負傷の場合は、民営の救急車を呼ぶ。料金はタクシーの5倍くらいだが、信号優先で病院へすつとぼしてくれる。必ず財布をもった人が同乗すること。救急入院といえども料金前払いである。

## 21. 出版物・新聞・雑誌

### (4) 国内の新聞・雑誌

新聞は、昭和50年7月からすべて「社会化」された。すなわち政府任命の運営委員が管理している。だからどれもまア官報みたいなものだが、おのずから誌格のようなものがある。リマで1流紙は、El Comercio と La Prensa（いずれも朝刊紙）、月ざめ180ソール。邦字紙はペルー新報がある。タブロイド版4頁（日本語3頁）これはまだ民営）1週6日刊で、月ざめ200ソール。

英語の週刊新聞 Lima Times は1部10ソール。

スペイン語の週刊紙はいろいろある。ペルー国内の出版、メキシコやアルゼンチンの出版などいろいろ。

### (4) 外国語の新聞、雑誌

英語の TIME、Reader's Digest、フランス語、ドイツ語、イタリア語などの雑誌は、リマ市内の一流書店なら大ていおいている。

ホテルの売店には、米国の新聞も売っている。

### (4) 日本の新聞、雑誌

リマ市内の場合、旧刊紙（空送）をペルー新報社が配達する。料金は月約3,300ソール。

週刊誌、月刊誌は、イケミヤ商店が扱っている。文芸春秋、中央公論、婦人雑誌などが1部250～300ソール。海送でくるので2ヶ月は遅れる。

もちろん、日本と直接契約で空送させる方法もある。そのさいは郵便配達のスドで止まることを覚悟しなければならない。（郵便局まで取りにゆけばよい。）

この他、時事通信が出しているリマ時事速報がある。ニュースはこれが一番はやい。月ざめ3,887ソール。



#### (4) 日本の専門図書

派遣期間が長期にわたる場合、専門分野の情報入手が制限されることが、われわれにとってもつらいことである。今のところ、個人的な対策を出発前にあらかじめ購じてくるほかない。それは大休次のように契約できるだろう。

- (1) 専門雑誌の長期購送契約の代行者の依頼 ベルーについて住所が決まったら、長期購送契約を代行することを頼む。
- (2) 単行本の出版情報
- (3) 単行本を購送すること。

#### 2.2. 国民性、風俗習慣

ベルーは階層社会である。均質社会になれている日本人は、まずこのことをおきまなければならない。

最上級は、スペイン征服以来、4世紀余にわたってこの国を支配しつづけてきた教士系の人たち、人種的には無論白人である。この社会で最も尊敬される外国語はフランス語だそうである。

近ごろは、政治の実権は軍人、とくに陸軍が握っている。彼らは必ずしも純白人、純スペイン系ではない。例えばベラスコ大統領は北部のピウラ出身で、あだ名をチーノ（中国人もしくは東洋人の意）という。中国人の混血ではないようだが、純白人ともみえない。

次は、スペイン以外の欧米諸国からの移住者の子孫やスペイン系、それに若干の原住民の混血（その程度の少ない）者など。日系人は、おおむねこのクラスの中以下にあるようである。

3番目が、都市の中堅階級、熟練労働者、小企業主たち。人種的にはいろいろな混血。

4番目が都市の下級労働者、農民。人種的には、混血黒人（都市の場合）

と純インディオ。もっとも地方によっては混血がいちぢるしく進行していることもあり、いちがいにはいえない。

そこで国民性であるが、最上流は、さわめて優雅なものらしい。らしいというのは、私たちにあまり接触がないからである。彼らの顔は完全にヨーロッパを向いていて、米国人も彼らからみれば、「成りあがり者」である。日本人に対して「アジアからの訪客」として一応敬意を示してはくれるがはらのうちは判らない。

第2階級は、政治・経済の現場で働いている人たちで、仕事でいちばん接触が多い人たちである。個人的・社会的には明朗で、賑やかなことが好きで、愉快な人たちだが、仕事の方はかなりルーズで、御都合主義的で、官僚的である。これはペルーに限ったわけでないが、ラテン的気質一般に、物事をゆったり処理するのが紳士・淑女の態度だとされる。米国式もしくは日本式の能率第一のやり方は少くとも礼儀にかなう道でないと言われる。われわれにとっては時間にルーズなのがいちばん困る。

第3階級は、派遣専門家の仕事の助手、あるいは技術の指導対象の下層を構成する。命ぜられたことには一応忠実である。理解能力もまずすぐれているといえるだろう。ただ日本人と違うのは、もう一步のふみこみがないことであろうか。努力しても、限界があると観念している点もあるのだと同情できるが、指導する側としては、ときにハガユイ思いにかられるものである。

第4階級は、黙々として働く労働大衆である。表情に乏しく忍耐強い。しかしほとんど向上意欲というものを感じさせない。

全体を通じていえることは、「契約重視」ということだ。口約束は信用されない。重要な契約はすべて弁護士を介してなされる。一例をあげれば、借家の明渡しを貸借契約書にもとづいて1ヶ月前に予告するのも、弁護士を介するか、もしくは文書で通告してサインをとっておく。某氏は、電話で家主に通告し、「承知した。あとに入りたい日本人があつたら紹介してほしい」

という返事をきいているのに、いざ当日となったらそんなことはきいていないとしらをきられて、敷金のとられ損になってしまった。

hasta mañana とは直訳すると「明日まで」ということ。事務所で終業時にいうのは「サヨナラ、またあした」というくらいの意味であるが、約束でいうときには「明日できます」という意味にとつてはいけぬ。むしろ「明日までではできません」という意味にとる方があとでガッカリしない。明日までできないということは、明後日できるという意味ではないからである。

日本人は約束をする場合、不測の事態もある程度考慮に入れて（マザカ「日本沈没」までは考えないが）約束するが、ペルー人は考えうる限りのベストの条件で日時の約束をする。だから遅延の口実はいくらでもあるわけだ、ラッシュアワーの車の渋滞、急に大臣に呼び出された、タイプライターが故障した、誰が書類をもっているかわからない、傑作なのは、書類箱の鍵をもっている男がそのまま、休暇をとってアルゼンチンへ旅行に行ったから、例の件は1ヶ月延期……。

特に禁じられている風俗習慣については、欧米の常識なみと考えてよい。チップは米国ほど面倒でない。飲食店では、勘定の10%をチップ（プロビーナ）として計算書につけてくることが多い（ホテルも同じ）、そうでなければ5~10%のきりのよい額をチップにする。ホテルではこの他、部屋の掃除人のために、5~10ソーレスくらいを枕もとへおく。手荷物をボーイ（モソ）に運ばせたときも同じ。ホテルの前に客まちをしている靴みがき少年にタクシーを呼びとめさせたら（旅行者にはヤミタクの区別がつけにくい）やはり2ソーレスくらいを与える。

男女の愛情の交換は、非常に大らかで、路上、公園などで抱擁し、接吻している光景はしょっちゅうである。こういうのをジロジロみないのはやはり礼儀であろう。写真をとりたいならひとこと声をかけよう。相手によって（前記の第3~第4階級）なら10ソーレスくらいのチップを与えよう。

(服装でわかる。男が背広ネクタイなら第2階級。上流は、路上で抱擁などしない。)

### 23. アンデス高原のワンカヨ市

Huancayo 市、日本の地図ではワンカヨとなっているかもしれない。石塚隆氏(太陽物理学専門家)による同市の紹介である。

リマから東へ、アンデス山中に入り、途中海拔4,800m級の峠を越えて、約300km、峨々と岩層をむき出した山なみにさえぎられていた視界が突然に拡がって、広大な緑の沃野へ出る。幅約10km、長さ40kmに及ぶこの盆地の東側には、海拔5,700mの雪山の群が壮麗な姿を見せる。盆地の中心都市ワンカヨは、人口約15万人、海拔3,200mの盆地東南隅に位する。ワンカベリカ、アヤクチャ、サティボ等の山岳・密林地帯の遠隔都市からの自動車道路を集める交通の要所である。

リマから自動車で約6時間、汽車で約10時間、バスで約8時間の行程である。汽車は毎日あるわけではなく、1日1本がワンカヨへ登り、翌日リマへ降る。日曜日は運行しない。推選できる乗物は、乗合タクシーで、昼間6時間の行程、しかも割増料金を払えば貸切もできる。

リマから最も近い山岳部の地方都市であるために、近年ワンカヨへの観光客が激増した。市外へ出ると、黒々と見えるほど澄みぎった青空、沃野を貫流するマンタロー川(アマゾンの一支流)を背景に、ユーカリの木立の間、エニシダ(豆科)の花の鮮かな黄色を点在させた、いわゆる「ワンカヨの小径」を往き交う農民のスカートの原色、荷を負うたろばの群が牧歌に満ちた雰囲気醸して観光客を魅了する。盆地のなかには、その昔、フランシスコ派が伝道のため、密林地帯進出の起点にしたオコバ修道院、漁業省が経営するインヘニオます養魚場、モーターボートで湖内を一層できるパカ湖があり、観光名所になっている。南郊には、ワリビルカの遺跡があり、ささやか

な博物館に出土品も陳列されているし、ワンカイヨとワンカベリカを結ぶ鉄道の車庫には、旧用・現用の古い蒸気機関車が格納されていてSLファンを飽きさせない。

日曜日のワンカヨ市内には、早晩から夕刻まで、延々2Kmに及ぶ華やかな市(いち)が立って、周辺部落から娯楽した人で賑わう。これにならって周辺の大きな部落でも、週日に市が立つ。チュパカの土曜市、ワユカチの月曜市、チャキコーチャの金曜市と、市の場所と日が常に入々の念頭にある。

ワンカヨの町には、トルヒーヨやアレキーパのような、スペイン植民時代からの豪華な建築もなく、あるいは、クスコやカハマルカにあるような、遠いインカの時代を彷彿させるような石積みの遺跡もない。市の中央を長く走る目抜き通り以外にも、インカの王道の名を残して、ここはワンカ族の町(ワンカヨとはその意味なのだ)土と家畜の匂のしみこんだ町なのである。人々は柔和で勤勉である。他民族との融和性には乏しいが、信頼する人には信義が厚い。

町には、日系人が百家族近くも住み、主に商業に携わる。生鮮食料品以外のものなら、日本語だけで買物が充分にできる。

日系人がワンカヨにこのように多いのは過去の特異な事情によるもので、他の山岳地方に在住する日系人の数はきわめて少ない。アヤクーチョ、クスコ、ワラス等には、各々数家族の日系人が定住しているが、ワンカベリカのように皆無の町もある。

#### 24. 総括

以上をお読みになった方は、ペルーという国をどうお感じになるだろうか。筆者の印象を押付けるつもりは、さらさらないが、発展途上国としては、

「暮らしやすい方に属する」

と思う。

暮らしやすい、という理由は、物資の輸入は不自由とはいえ、味噌・醤油・豆腐などの日本食品、日本米・日本風の野菜が自給されるし、これという悪性の風土病もなく、気候もそう苛烈でない。リマの冬季の陰湿はかなりのものだが、これはむしろ個人の体質による。しかし、最近の物価の上昇で思わぬ生活費の支出に悩むこともあり得るので、計画的な支出をはかり、不測の出費に備えることが肝要である。

外国暮らしの憂鬱は、言葉の問題、本人の方は、覚悟するとして家人にとって外国語を使うことだが、この点でペルーは、日系商店とスーパーだけで買物をし、女中を使わなければ、それ程必要がない。3年も滞在していたが、挨拶と数詞ぐらいしかスペイン語を体得しなかった御婦人もあるほどである。この点では、ブラジルやハワイと並んで「暮らしやすい」国であろう。

仕事の上でも、日本語通訳が得やすい が利点である。予め、A1フォームを通ずる事前交渉で、日本語通訳を雇うことを条件にいれさせるようおすすめする。そうすれば、1~2ヶ月で仕事を軌道に乗せられる。というても仕事が日本のようなテンポで進むと期待してはならない。日本で1年かかる仕事なら、当国では3年かかる。余程条件がそろって2年である。余り「仕事の鬼」になると、ノイローゼのおそれがある。

最後に、赴任準備に忙しいあなたに、ぜひおすすめしたいことがある。support group といえよいか、後援システムといえよいか、名前は適宜考えるとして、ペルーにおけるあなたの仕事を日本で後援してくれる数人の公的もしくは半公的グループを組織することである。早い話が所要機材の見積りをつくるにせよ、その選択の資料が手元になければならぬし、赴任時に携行する資料が陳腐化するかもしれない。また複雑な技術上の計算も日本へ送ってコンピューターで処理すれば簡単であろう。所詮、専門家個人の能力には限界がある。あるいは、こういう援助システムがあってはじめて個人の能力はフルに発揮されうるともいえよう。

そうでなくとも、海外勤務は意外に雑務が多いものであった。筆者はペルーへ赴任する前の10年余り、浄書とか会計経理というような事務をしたことがなかった。前者についていえば、原稿をかき、もしくは構想を口述すれば、それが浄書され、完備された文書になった。当地では、スペイン語の文書なら、そうなるが、日本文の方はそうはいかない。浄書もみずからやるほかない。浄書もみずからやるほかない。後者については、経理係が作成した文書を開いて、捺印するだけですが、当地では、たとえ金額はわずかでも、現地業務費を経理しなければならない。おかげで振風が一発でキチンと合ったときの経理マンの「喜び」をわが物として体験した。

ではお元気で。ペルーに着いたあなたを在ペルー専門家連絡会議の面々が歓迎するであろう。

参考図書：インカ帝国 岩波新書、アンデス文明の考古学的素描の好著  
アンデス共同市場（上・下） JETRO、アンデス諸国のなかにおいて、対比しつつペルーをみる方がわかりやすい。現在最も新しく、最も正確な好資料。

II 同国に対する我国の技術協力実績

昭和49年3月31日現在

形 態	区 分															累 計 (人)	経 費 (千円)	
	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉄 道	軽 工 業	化 学 工 業	公 益 事 業	運 輸	郵 政	厚 生	原 子 力	経 営 技 術	教 育	行 政			そ の 他
研 修 員 受 入	10	18	22	2	12	7	2	16	28	36	13		19	4	19	1	209	156,022
専 門 家 派 遣	2	10	9	7	71		1	19		33	2			2	4	5	165	439,928
海 外 協 力 隊																		

(注) 但し受入、派遣、協力隊の人数については昭和48年度末累計、経費については昭和47年度末累計の数字である。

区分	プロジェクト名	期 間	概 要	年 度	派遣人員数		経 費 (千円)		
					専門家等	調査団	機材購送実績	派遣費実績	合 計
開 発 調 査	マトラニ港拡張計画調査	36.7~36.8	マトラニ港改良、新港建設、附帯道路鉄道建設、荷役機械等計画のための調査。	36		5		4,914	
	木材利用工業開発計画調査	38.10~38.12	チリ国を参照のこと、(チリ、ペルー)。	38		5		6,711	
	電気通信網開発計画調査	39.2~39.3	同国は電信は国営、電話は3つの私企業により運営されているが施設が不十分である。そこでマイタロウエーブ幹線を建設して、電話のない都市に電話サービスを開始して施設の充実を図り、併せて電気通信関係法規を整備してサービスの向上を企図して調査をした。	38		6		7,489	
	包蔵水力調査	39.11~40.1	アマゾン河流域マラニョン河、アフリマク河及びチチカカ湖流域を対象として包蔵水力に関する基礎調査。	39		7		10,211	
	ブノ県電化計画調査	42.2~42.3	日本の経済協力により開発されたタクナ県アリコータ発電所よりの送電を主体としてブノ県チチカカ湖周辺、市町村の電灯、小規模工業、かんがい揚水のための電化計画調査。	41		4		8,512	



区分	プロジェクト名	期 間	概 要	年度	派遣人員数		経 費 (千円)		
					専門家等	調査団	機材送込実績	派遣費実績	合 計
開 発 調 査	震災復興計画調査	45. 7~45. 9	チンボテ、ウアラス地方に発生した地震被災地における地盤変動、土質土木構造物等の調査。	4 5		5		11,514	
	リマ〜チンボテ間送電建設計画調査	46. 1~46. 2	1970年5月の地震災害に対する復興計画の一環としてリマ地方とチンボテ地方とを結ぶ送電線建設計画の調査。	4 5		5		6,865	
	電気通信施設調査	47. 3~47. 4	電気通信施設復旧及び新設計画調査。	4 6 4 7		10		26,045	
	ヤウリ地区資源開発協力基礎調査	46.10~46.12 47. 9~47.12 48.10~49. 2	鉱物資源賦存の可能性の確認。 地質及び動力調査。	4 6		9		61,850	
				4 7		27		123,791	
				4 8		24		(161,499)	
	鉄鋼事業開発計画調査	46.11~46.12	NAZCA、TALARA、SOGESAの3地点における製鉄所新設及び拡張のための技術的可能性に関する調査、地域の選定、設備規模等の検討。	4 6		7		13,012	
	アンデス・グループ多国籍海運基礎調査	47.11~47.12	チリ国を参照のこと、(チリ、エクアドル、コロンビア、チリ)。	4 7		3		5,439	
中南米技術協力プロジェクト選定調査	4 7. 1 2	グアテマラ国を参照のこと、(グアテマラ、ペルー)。	4 7		6		4,528		
鉱工業プロジェクト選定確認調査	47.10~47.11	ブラジル国を参照のこと、(ブラジル、メキシコ、グアテマラ、エクアドル、ペルー)。	4 7		2		1,984		

区分	年度	機 材 名	機 材 供 与 先	経 費 (千円)
単 独 機 材 供 与	47	水産機材	農科大学	3,961
	48	水産機材	ラモリナ農科大学	3,840
	"	簡易伝ばん装置	運輸通信省通信総局	3,617

参 考	<p>日本の約3.3倍の国土を有し、アンデス山脈により海岸地帯、山岳地帯、森林地帯の3地帯に分かれる。農業は労働人口の48.4%を、生産シエアは全体の55%を占め、農耕地は全面積の2%、輸出の主力は砂糖、綿花、コーヒー。同国政府は、今後できる限り食糧の自給力を高め失業者を吸収するため農地改革、金融、技術援助等を通じて農業開発を第一優先努力目標としている。</p> <p>漁業は全輸出の30%を占める重要産業であり、又魚粉は世界生産の33%を占める。鉱業は、輸出総額の50%を占める。亜鉛、鉛の生産も順調であり、石油は国内需要の80%を充足しており、最近北部森林地帯に新油田が相次いで発見されている。鉱山開発の成否はペルー経済の発展の鍵をにぎる。在留日系人の数は約56,000人で、80%以上がリマ市とその周辺に居住している。</p> <p>商業、特に飲食店、食品、雑貨店が一番多く、次いで綿花、野菜、果実、花等を栽培している農産、及び養鶏業である。</p>												
経済開発計画 (1972~1974)	<p>農牧部門は開発計画の重要な部門であり、食糧の自給化、失業者の吸収、農地改革の促進を必要としている。漁業部門については、開発計画作成に当り3つの問題を提起している。アンチヨビ漁獲の生物学上の限界、食用漁業の停滞及び漁業の低生産性である。</p> <p>鉱山部門では、大型鉱山開発のほう大な資金調達がある。工業部門では、豊富な鉱物資源の加工利用による精錬、金属加工、肥料、石油化学産業の振興が考慮されており、また、農機具など農業部門と結びつくプロジェクトも組み込まれている。</p> <p>なお、経済開発計画とは別に単年度の計画として技術部門の計画があり、重点は農牧・教育分野にあり、前者は農地改革の促進と牧畜が中心となり、後者は教育研究センター及び教師の再訓練である。</p>												
日本の経済協力	<p>第1次及び第2次債権越延べ</p> <table border="1"> <tr> <td>円借款</td> <td>230億円(リマ〜チンボテ間送電線及び変電所建設、マイクロウェーブ通信施設建設、タララ肥料工場建設に対し)</td> </tr> <tr> <td>海外投資</td> <td>タクナ総合開発事業、銅山開発事業など積極的投資活動を行なっている。</td> </tr> </table>	円借款	230億円(リマ〜チンボテ間送電線及び変電所建設、マイクロウェーブ通信施設建設、タララ肥料工場建設に対し)	海外投資	タクナ総合開発事業、銅山開発事業など積極的投資活動を行なっている。								
円借款	230億円(リマ〜チンボテ間送電線及び変電所建設、マイクロウェーブ通信施設建設、タララ肥料工場建設に対し)												
海外投資	タクナ総合開発事業、銅山開発事業など積極的投資活動を行なっている。												
各国の技術協力	<table border="1"> <tr> <td>西 独</td> <td>6,921 千ドル</td> <td>日 本</td> <td>977 千ドル</td> </tr> <tr> <td>米 国</td> <td>5,000 "</td> <td>そ の 他</td> <td>1,507 "</td> </tr> <tr> <td>オランダ</td> <td>1,940 "</td> <td>計</td> <td>16,345 "</td> </tr> </table> <p>(DAC諸国、1972年)</p>	西 独	6,921 千ドル	日 本	977 千ドル	米 国	5,000 "	そ の 他	1,507 "	オランダ	1,940 "	計	16,345 "
西 独	6,921 千ドル	日 本	977 千ドル										
米 国	5,000 "	そ の 他	1,507 "										
オランダ	1,940 "	計	16,345 "										

区分	プロジェクト名	期 間	概 要	年度	派遣人員数		経 費 (千円)		
					専門家等	調査団	機材搬送実績	派遣費実績	合 計
開 発 調 査	ミチキジャイ地区資源 開発協力基礎調査	49. 3 49. 3~49. 9	鉱物資源	48		2		(94,976)	
	テレビ放送網拡充計画 調査	49. 1~49. 4	放送網の確立、演奏所の整備、リンク回線の開設、放送事業の経営、制度および要員計画の検討等の現地調査。	48 49		9		(27,042)	
	ヤングス水力発電開発 計画調査	49. 2~49. 3	1988年以降不足が予測される北部への電力供給、リマからチクラユに到る沿岸地域の開発、Michi-quillay銅鉱山への電力供給に資するためヤングス水力発電開発計画に関するプレ・フィジビリティ・スタディ。	48		7		(18,837)	
	中南米諸国プロジェクト 選定確認調査	48.11~48.12	(ペルー、エクアドル、グアテマラ) 鉱工業エネルギー開発計画の調査を効率的に実施するため、各国要請プロジェクト内容ならびに経済開発計画における位置づけ等の調査を行ない実施するプロジェクトの選定確認を行なう。	48		2		(2,051)	
海外 センター	ペルー水産協力事前 調査			48		5			



### Ⅲ 大使館等連絡先

#### 大 使 館

Mailing address Embajada del Japón, Apartado

(またはP.O.Box) №3708, Lima, PERU

所在地 Av.San Felipe No. 356, Jesús Maria, Lima

電 話 61-4041 (Lima)

領事館も上に同じ。

